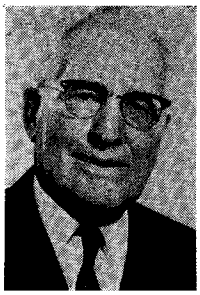
聖徒の道
1971年3月20日発行（毎月1回20発行）第15巻 第3号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可

# 聖徒の道 1971 3



# 心の糧

十二使徒評議員
ヒュー・B・ブラウン

人々を絶望から救い得るものは信仰だけである。イエスは言っている，雨が降り，洪水が押し寄せ，風が吹くのを知りながら，人が岩の上に家を建てるか砂の上に建てるかは信仰によるのであると。

第一次世界大戦の時に起こった一つの話を紹介したいと思う。私の将校仲間に非常に金持ちで高い教育を受けた同僚がいた。彼は法律家で実力があり，うぬぼれが強かったが，宗教について話した時に私に言った。（彼は私が何者であるかを知っていたので）「この世の中に金で買えない物は何一つないよ」

それから間もなく，彼と私は他の二人の将校と共に，当時包囲されていたフランスのアラスへ行く任務を与えられた。その町の人々は疎開していて，我々が到着した時には，だれもいないように思えた。我々はある寺院に入って行った。するとそこの祭壇に小柄な婦人がひざまづいていた。我々は彼女の祈りを妨げないように立ち止まった。やがてその婦人は立ちあがり，小さなショールを弱々しい肩にかけて，通路をよろよろと歩いてきた。フランス語のよくできる仲間の一人が「何を悩んでいらっしゃるのですか」とたずねた。

彼女はあごを引き，姿勢を正して言った。「いいえ，今は悩んでいません。ここに入って来た時はそうでしたが，祭壇の前で悩みを忘れました。」

「それでどんな悩みだったのですか」

彼女は答えた。「今朝，私の五男が祖国フランスのために戦死したという知らせを受けたのです。夫が最初に亡くなり，それから次々と息子たちがみな去ってしまいました。でも」また姿勢を正して彼女は続けた。「私は悩みません。人間が不滅であることを信じているからです。私は人が死後も生きると信じています。私は愛する人たちに再び会えるのです。」

その婦人が出て行った時，我々の目には涙があふれていた。そして金で何でも買えると言った例の男が私の方を見て言った。「我々は戦場で称賛に価する勇気を示す多くの人々を見てきたが，あの小さな婦人の信仰と勇気ほどにすばらしいものをいまだかつて見たことがない。」

彼は続けて言った，「もし私があの婦人の持っているようなものを手に入れることができるなら，私の全財産を出してもいいよ。」

信仰は，人間の悲劇が単なる無意味なたわむれでないという確信を与えてくれる。人生とは，ヴォルテールが言うような「悪ふざけ」ではなく，実に神が創設したまい神自らが教鞭をとられる訓練の学校なのである。

## ―― もくじ ――

予言者のことば
教会のプログラムを活用しなさい
……大管長　ジョセフ・フィールデング・スミス……57
カートランドを再び訪れて……G・デール・ウェイト
アール・M・モーテンセン博士……59
古代アメリカ大陸への上陸……ジョン・リアー……63
フェニキア人に心ひかれて……ロス・T・クリスチャンセン博士……67
管理監督のページ
教会と若者たちが直面する現代の問題
……管理監督ジョン・H・バンデンバーグ……71
私を心から愛しているのなら……73
災厄の問題……ウィリアム・E・ベレット……74
発展を続ける初等協会小児病院……副編集長バーネル・W・ベレット……79
伝道部だより……82

## 子供のページ

ゆびにんぎょう……マリアン・マイナー……9
ネブ少年のマーク……ロザリー・W・ドス……10

## 3月のこよみ

1日　1807年
ウィルフォード・ウッドラフ（4代目大管長）コネチカット州エイバンに生まる。

11日　1956年
ロスアンゼルス神殿　デビド・O・マッケイ大管長により献堂さる。

17日　1842年
扶助協会イリノイ州ノーブーにおいて組織さる。

18日　1833年
最初の大管長会組織さる。

27日　1836年
教会最初のカートランド神殿，ジョセフ・スミスにより献堂さる。

## 今月の表紙

オハイオ州のカートランドという美しい絵に描いたようなこの村を知っているアメリカ人はほとんどいないが，ここカートランドは末日聖徒の歴史上最も画期的な出来事の起こった所である。1831～1837年までの約6年間，神の予言者ジョセフ・スミス，Jr.はそこで回復された教会の先頭に立ち，今日の教義と聖約に見られる35の啓示がそこで彼に与えられたのである。その啓示の中で，聖徒たちは主のために神殿を建てるようにとの指示を受けたのであった。（教義と聖約95：8，11～17）

3年間の労働ののち，1836年3月27日日曜日，神殿が献堂された。その日，天使たちが現われて会堂に集まった人々と声を合わせ，多くの聖徒らが豊かにみたまを注がれてある者は予言し，ある者は異言を語り，ある者は示現を見たのであった。それから約一週間後，復活したイエス・キリストが神殿に現われて予言者とオリバー・カウドリに啓示を与えられた。それから三人の旧約聖書の予言者モーセ，エライヤス，エライジャが訪れて指示を与えた。「主の宮居」が礼拝する所，指示を受ける所，そして同じ信仰の人々と楽しく交わる所として，聖徒たちの集まりの場であったということは言うまでもない。

この表紙の絵は，ブリガム・ヤング大学映画部監督ダグラス・ジョンソン氏によるものである。関連記事，本誌「カートランドを再び訪れて」参照。

# 教会のプログラムを活用しなさい

大管長

ジョセフ・フィールディング・スミス

主は我々に完全な教会の組織を与えたもうた。我々は真理と義の道からそれないために必要なあらゆるものを持っている。もし我々のために描かれたコースを歩むなら，この世にあって幸福で正しい生活をするであろう。また，来世において天の王国にのみある完全なる報いを受け，ゆずりを受ける者となる。

パウロは教会の組織について語っている。

「……神は教会の中で，人々を立てて，第一に使徒，第二に預言者，第三に教師として，次に力あるわざを行う者，次にいやしの賜物を持つ者，また補助者，管理者，種々の異言を語る者をおかれた。」（Ｉコリント12：28）

言いかえると，主はその教会に使徒と予言者を頭とする神権組織を立てられたのである。

また，主は神権を助け，支援するために「補助」とか「管理系統」という他の組織を与えられた。

どの福音の神権時代においても，対拠しなければならない必要，解決すべき問題があり，また主のみ前に「恐れおののいて」救いの達成に努めている教会員を助けるものが存在する。このことから我々には神権を助ける補助組織がある。補助組織はどのような社会状態のところにも，人々の必要を満

たすために組織されている。それらは神の政体の一部であり教会員の生活を整えさせ，この世において，また来たるべき永遠の生活において，喜びと幸福を教会員に保証するために立てられているのである。

たとえば，天の霊感のもとに，ブリガム・ヤング大管長はＭＩＡの基いをすえた。彼は教会の若人に質素倹約，基本原則にたちかえること，世を克服し神の戒めを守ることを呼びかけた。

若い人々と共に働くよう召された指導者に対して彼は言っている，「若人一人一人に真理と末日の御業の偉大さに対する証を確立し，彼らのうちにある賜物を発達させることを，あなたがたの主眼としなさい。」

福音における大きな霊的祝福は神権組織を通じてもたらされる。人生の最も輝かしい祝福は主の宮居において完全なる神権を受けることである。

しかし，そのためには多くの助けと励ましが必要とされる。人を涵養する多くの影響力，信仰を増し証を強める無数のこと，我々の心中に義なる望みを吹き込む多くの事柄などこれらすべてが神から与えられた才能をまっとうするに役立つために存在している。

救いに導くこれらの事をなす責任は主として個人個人にある。我々はみなこの世の試しの生涯を経験するために地上におかれている。我々は戒めを守り，世に打ちかつか否かを見られるために，現世にいるのである。従って我々は自らなし得るすべてのことをしなければならない。

我々の救いに対する次の責任は家族にかかっている。両親は子供たちのために光や導きとなり，彼らに福音を教えることや正しい模範を示すことにより，光と真理に導くよう戒められている。子供たちは両親に従い，両親を敬うように望まれている。

教会とその機関は家族と個人を助ける奉仕の組織を実際に設けている。ホーム・ティーチャー，神権指導者，監督は天父の王国で永遠の生命を得るために共に努力している人々を導くために任命されている。そして補助組織はこの大いなる救いの御業を助け支えるという任を受けている。

我々はこれら天父の子供たちの利益と祝福のためのあらゆるプログラムを大いに利用することの必要性を強調しすぎることはない。

私は，若き世代の人々が指導者の助言と指示を受け入れ，心から義を求めることを切に願ってやまない。

もし我々すべてが教会のプログラムを進める際に，なすべきことをすべて行なうなら，主は我々に充分な祝福と繁栄とを与えられ，我々の働きは成功し，かくてあらゆる平安と喜びとが現世にもまた永遠の来世にも約束されるであろう。

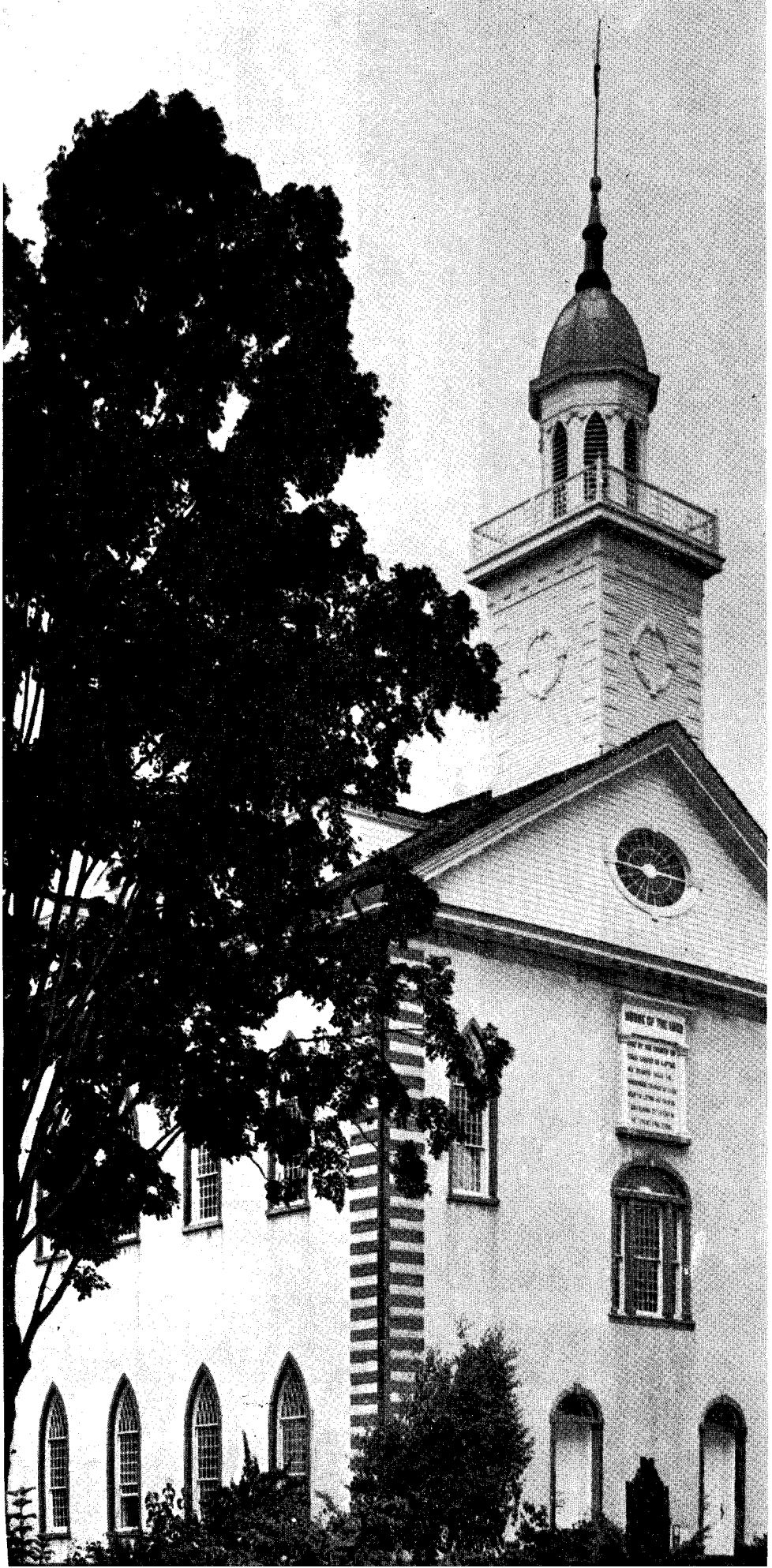
シオンの若人および全世界の若人のみなさんに，私はこの末日の偉大な御業が真実のものであり，神のものなることを証し申しあげる。

我々は真理を知っていることと，主が予言者ジョセフ・スミスをなかだちとして，永遠の完全なる福音をこの末日にあらわしたもうたことを，すべての人々に知らせようではないか。

この証は聖霊に吹き込まれ，また我々の心に聞える静かで小さなささやきによりもたらされる。

聖霊の力によって，私はイエス・キリストが神の御子，世の救い主であること，ジョセフ・スミスは神の予言者であって，たくわえおかれた福音の真理を地上にことごとく回復するために全能者により召されたことを証し申しあげる。また末日聖徒イエス・キリスト教会は文字通り地上における神の王国であり，救いの真理を見出すことのできる所，人々が主の聖なる神権を得て永遠の生命を結び固められる所であると申しあげる。

証のみたまが末日聖徒の心に満ち，我々すべてが雄々しく証を述べ，天父の王国にこぞって座ることができるよう祈る次第である。



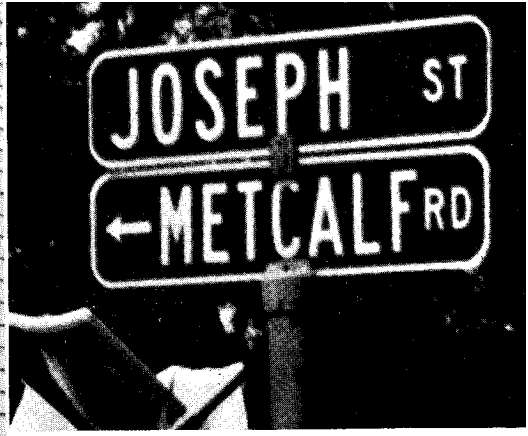
# カートランドを再び訪れて

G・デール・ウエイト
アール・M・モーテンセン
博士

オハイオ州北部の家並みは，美しいシャグリン盆地を流れる曲りくねったシャグリン川流域をオハイオ州カートランドまで続いている。盆地の一番はずれの丘に近づくと，そのあたりに「昔のモルモンの神殿」として知られた荘厳な建物が目に入る。これは，1830年代にカートランドとその付近に入植したおよそ4,000人の聖徒たちの記念として立っている。135年を経た現在，当時の面影はほとんどない。この土地はクリーブランドの近郊住宅地として現在，急速に発展しており，この土地から産業がなくなってから長い月日が経過している。掲載している写真から，今日この歴史的な社会に何が残っているかがうかがえる。

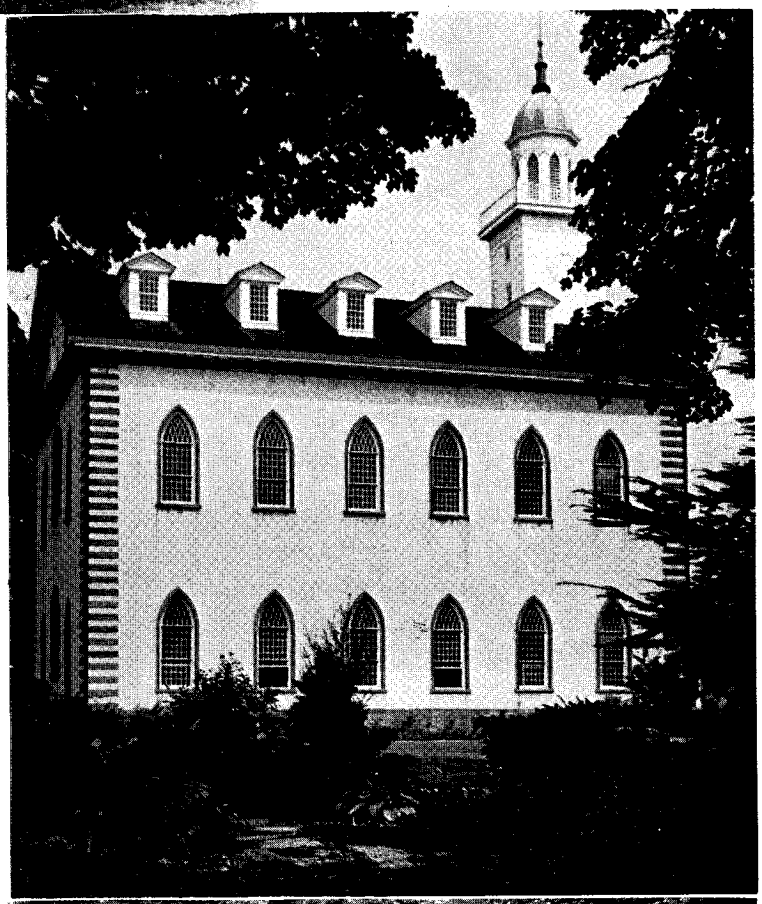
G・デール・ウァイト博士：ペンシルバニア州ピッツバーグの日曜学校教師，クリーブランドの連邦準備銀行ピッツバーグ支店次長。

アール・M・モーテンセン博士：オハイオ州クリーブランド・ステーキ部YMMIA管理会長，クリーブランド州立大学の化学の准教授。



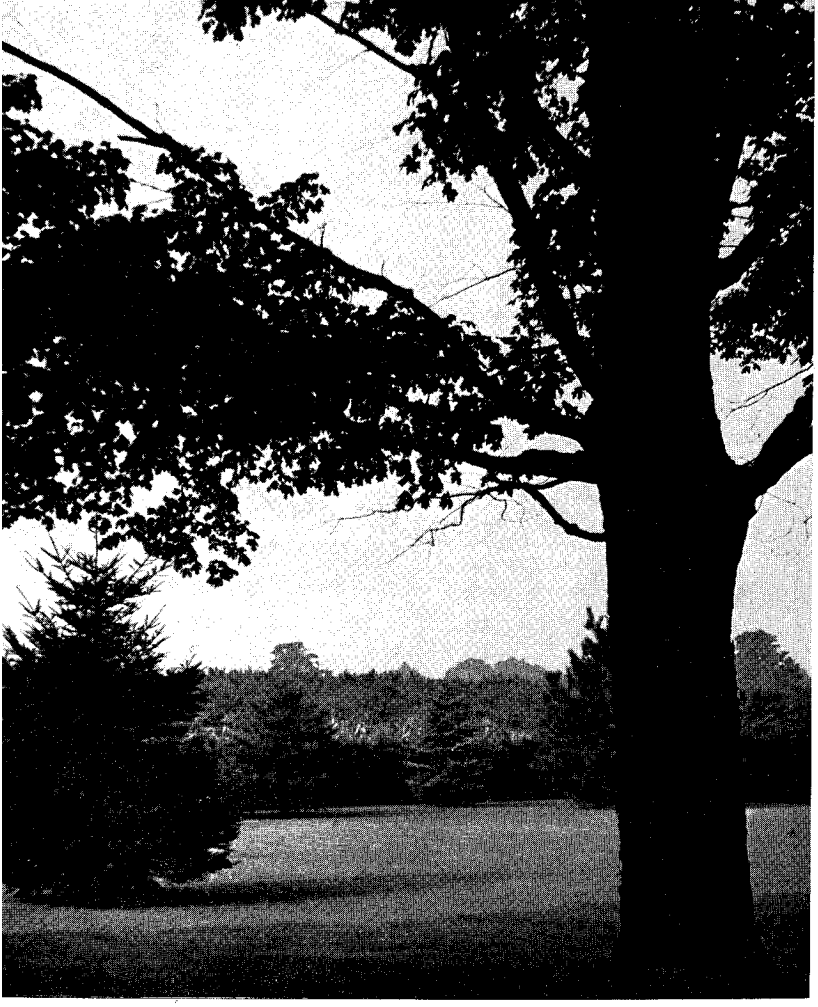

神殿に隣接したジョセフ通りは，ジョセフ・スミスが1833年にカートランド開発を目的として計画した「シオンの都」の名残りを沈黙のうちに物語っている。

1831年2月，カートランド到着後の数か月間，ジョセフ・スミスと妻のエマが二階に住んでいたニューエル・K・ホイットニーとアルジャーノン・シドニー・ギルバートの店（現在は一部復元されている）教会歴史第1巻(英文) P. 146 にある，ジョセフ・スミスの到着に関する興味深い物語を参照のこと。



現代の神殿とは違って身代りの儀式は行なわれず，礼拝の目的で建てられたカートランド神殿は石で造られており，輝きを出すため小さな美しい磁器と水晶を混ぜたしっくいで上塗りされている。1836年3月に献堂されてすぐに神殿ではたくさんの啓示を受けた。その中に救い主や，モーセ，エライヤス，エライジャの訪れがある。

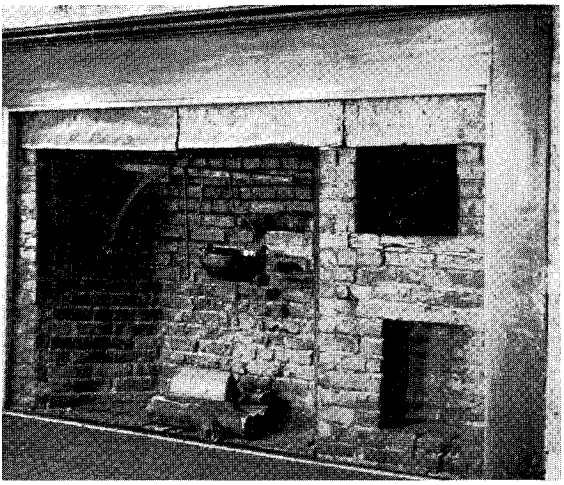
神殿から南へ約5キロメートルのところに，神殿建築の時に使った石灰岩の石切り場がある。切り出された石や石切り場の名残りが現在もある。予言者や大管長会，大祭司たち，長老たちがこの石切り場で働いた。



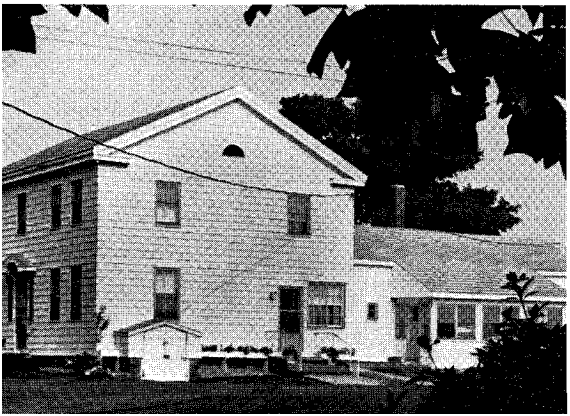
ジョンソン家の農場から少し離れ，現在静かなたたずまいを見せているこの場所は，1832年3月24日の夜，予言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが残忍な暴徒たちの襲撃を受けたところである。

二人の身体には，生涯，その傷跡が残っていた。

神殿の北にある小さな共同墓地には，ハイラム・スミスの妻ジャルーシャ・バーデン・スミスと予言者の祖母メアリー・B・スミスの墓石がある。その近くに，1831年に生後3時間で死んだ予言者の双児の息子と娘が埋葬されている。



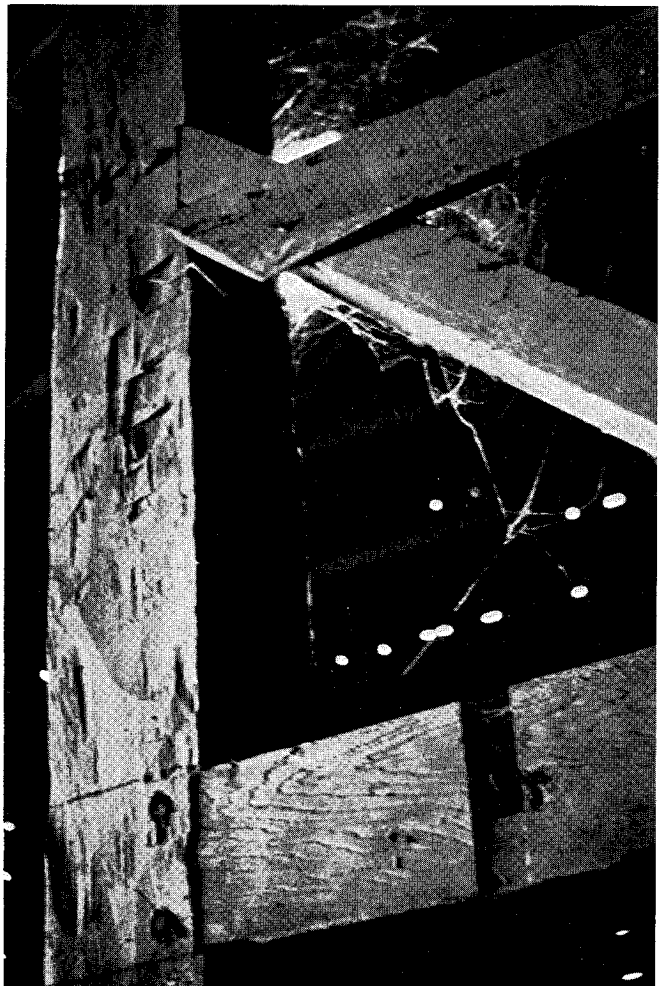
ジョンソン家の炉は，スミス家が暖房用，料理用かまどに使用していた。



1831年9月ジョセフ・スミスとその家族は，カートランドの南東約48キロメートルのハイラムに住むジョンソンの家に移り住んだ。

この家では，数多くの評議会や大会が開かれ，予言者はここに数カ月住んだ。教義と聖約中の15に及ぶ啓示は，この家で受けたものである。その建物は一部復元されている。

屋根と壁を一部修復したジョンソン家の納屋は，予言者の時代に建てられたものである。

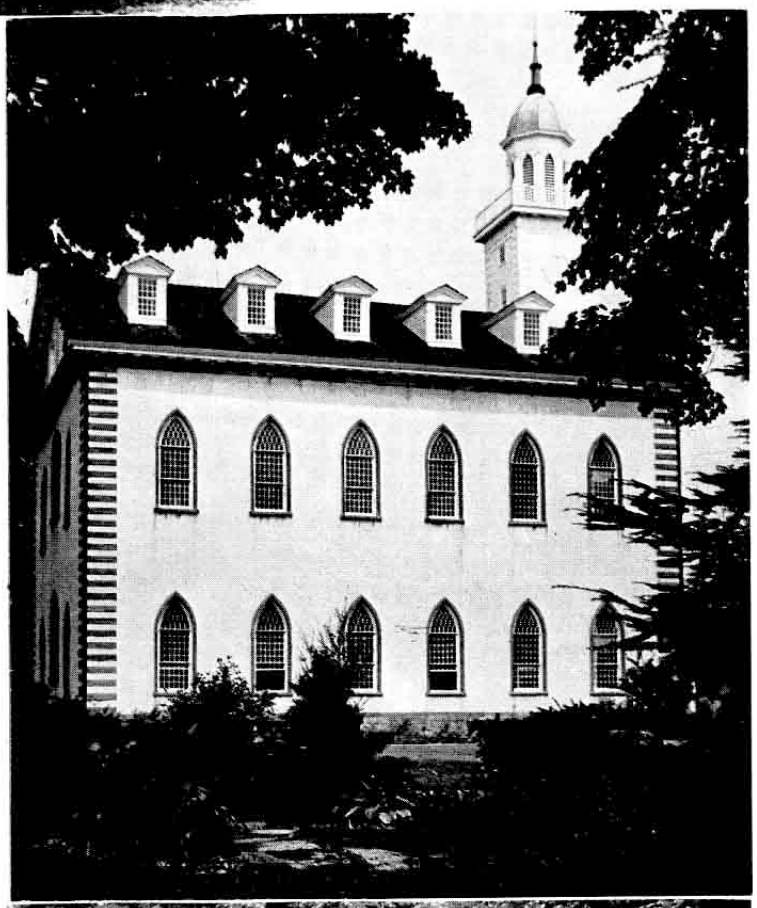


最近復元されたこの建物は，副管長であったシドニー・リグドンの家である。8キロ北のメンターで以前牧師をしていたリグドン副管長は，多くの聖徒たちを教会に導き入れた。

堅木を用いた手製の梁は木製のくぎでつなぎ合わせてあり，ジョンソン家の納屋の造りの見事さを示している。

神殿に隣接したジョセフ通りは，ジョセフ・スミスが1833年にカートランド開発を目的として計画した「シオンの都」の名残りを沈黙のうちに物語っている。

1831年2月，カートランド到着後の数か月間，ジョセフ・スミスと妻のエマが二階に住んでいたニューエル・K・ホイットニーとアルジャーノン・シドニー・ギルバートの店（現在は一部復元されている）教会歴史第1巻(英文) P．146 にある，ジョセフ・スミスの到着に関する興味深い物語を参照のこと。



現代の神殿とは違って身代りの儀式は行なわれず，礼拝の目的で建てられたカートランド神殿は石で造られており，輝きを出すため小さな美しい磁器と水晶を混ぜたしっくいで上塗りされている。1836年3月に献堂されてすぐに神殿ではたくさんの啓示を受けた。その中に救い主や，モーセ，エライヤス，エライジャの訪れがある。

神殿から南へ約5キロメートルのところに，神殿建築の時に使った石灰岩の石切り場がある。切り出された石や石切り場の名残りが現在もある。予言者や大管長会，大祭司たち，長老たちがこの石切り場で働いた。

# 古代アメリカ大陸への上陸

ジョン・リアー

アメリカ・インディアンのある種族は，聖書のヘブル人と同じ先祖を持っていたと考えられる。

※ジョン・リアー著　1970年7月18日，サタディー・リビュー誌「古代アメリカ大陸への上陸」
（この記事は，非教会員による興味深い資料として読まれるべきものである）

およそ3,500年の昔，現存するアメリカ・インディアンの先祖たちは地中海から西半球へやって来た。

また紀元前531年，今ひとつの一団がカナンの地から現在のブラジルの海岸へたどり着いた。

以上のような説は，数年前にはだれからも相手にされることはなかったであろう。しかし，コンチキ号というイカダで太平洋横断の冒険をなし遂げたノルウェーのソール・ヘイエルダールが，今年の夏には旧大陸と新大陸の何千年にもわたる交通を証明しようと，アシで造った舟で大西洋横断を試みようとしている。科学界ではそのことがこの説の真実性を証明するものであるという意見がもっぱらになっている。

昨年の5月にアシ舟でモロッコの港サフィを出港する以前には，ヘイエルダールは古代の人々が航海したことを知らなかった。その情報は，マサチューセッツ州ブランディーズ大学の地中海研究学部の主任教授サイラス・H・ゴードンが学問的な雑誌に発表したもので，私が今この報告を書くにあたって参考資料にしているところである。

季刊誌「マニュスクリプト」に発表した論文の中で，ゴードンはジョージア州フォート・ベニングに合衆国陸軍基地が開設されるという記事を書いた。そこにはアンダーウッド・ミルと呼ばれる古代の遺跡がある。遺跡の中には，1966年の秋にバーベキュー用の穴を掘る仕事をしていたフォート・ベニング市のマンフレッド・メタカーフの心をとらえた平らな石があった。

メタカーフが穴を掘っている時に見つけた石の1つはかっ色を帯びた黄色の砂岩であった。ならんだ穴に石を入れようとその石を磨いていくうちに，メタカーフは石に奇妙なしるしが刻まれているのに気づいた。彼は，しるしは重大なものに違いないと考え，（ジョージア州の）コロンブス美術工芸博物館に引き渡さなければと思った。

博物館の教育調査部門主任ジョセフ・B・マハンJr.はメタカーフからこの石を受け取った。マハンは，アメリカインディアンに関する考古学と民族学の専門家で，当時ちょうどユチ族の文明について研究しているところであった。

ユチ族はジョージア州に居住していたが故郷を追われ，1836年にオクラホマ州に落着いた。マハンの研究では，このユチ族は人種的にも言語的にも他のインディアンとは違っていた。ユチ族は自分たちが南からジョージア州西部に移って来たのだと言っている。そして，さらに最初は東からやって来てアメリカに到着したのだと言っている。この南とは，東に大西洋を従がえたメキシコ湾を意味する。

ユチ族のある習慣がマハンの心を特にとらえた。それは，種族の人が聖なる収穫の月の15日に，その文明の中心地に巡礼の旅をすることであった。8日間，彼らは木の葉と枝で覆っただけの青天井の仮小屋に住み，その長い遠い道のりの間には，道中ずっと燃やし続

けている火のまわりでお祭りが行なわれる。「……ブラジルで発見された石は,『シドンのカナン人』によるものと認められた……」何人かは先に葉をつけた長い枝を持って歩く。祝いの中で，数度にわたって何人もの人が持った枝をはげしく振る。

マハンは，このユチ族の巡礼がヘブル人の小屋の祭り（「幕屋の祭り」あるいは「かりほ住まいの祝い」）に非常に似ていると思った。偶然にしては似すぎていると考えた。聖書のレビ記23章には，聖なる月の15日に始まる8日間の祭りについて記してある。この期間，人々は茂った枝と木の実，青柳で覆っただけの青天井の仮小屋に住む。レビ記23章27節にはユチ族の火に似たことが述べられている。

現在ユダヤ人は，この仮小屋の祭りで火を使わなくなっている。しかし，枝を振る儀式や巡礼などその他はすべてユチ族が行なっていることと同じである。

メタカーフがフォート・ベニングの古い水車場の遺跡で見つけた石を持って来た時，マハンの頭には以上のような資料が入っていたわけである。ユチ族がヘブル人と先祖を同じくするとしたら，メタカーフの石に刻まれたしるしは，この不思議なインディアン種族が地中海からジョージア州にやって来た次第を知る手がかりになりはしないだろうか。

1968年の春頃になると，メタカーフは石についてあれこれと考えるようになり，とうとうじっとしていられない気持ちで，ブランディーズ大学のゴードン教授に石の鋳型を送った。ゴードンは石に刻まれたしるしを，ミノス人の使っていた文字に合わせてみた。このミノス文明は，およそ3,500年以前の青銅器時代に，クレタ島のクノスを中心に栄えた。

石に刻まれた文字を調べた結果，ゴードンはミノス人の書体との間に類似点があると結論を下した。彼は次のように言っている。

「左下の方にある2重おのは明らかにミノス文明を思わせるものである。縦の1本線は，エーゲ文明の文字で数字の『1』を表わす縦線を連想させる。そして，小さな輪は『100』を表わす。左上から3つ目のひげのついた輪は太陽を表わす文字であると思われるが大きな数字すなわち『1,000』や『10,000』を表わすと言った方が適切であろう。ミノス文明の方で4本ひげのついた輪は『1,000』と同じである。メタカーフ石には7本のひげがついているが，もし『1,000』という単位でないとすれば，それはおそらく『10,000……』という数字を表わすのであろう。」

最後の行に2重おのと，全体の60分の1を表わすミノス文明の分数と，型銅が記されたその書き物は家財目録かもしれないという印象を受けた。彼は，「約1ポンドの重さの銅製の2重おの」と解釈するのだろうと考えたが，「ただの仮説にすぎない」と発表した。

ゴードンはユチ族の手がかりとなる言葉を研究した。知れる限りの言語を調べても何もつながりを見出せなかったため，彼はメタカーフ石の言語学的証明は出さずに「エーゲ文明の文字に関係がある」とだけ書いた。

「マニュスクリプト」誌に論文が載った後昨年の2月に，彼はチェコスロバキアのプラハ大学でセム語を研究しているスタニスラフ・セゲルト教授に石の鋳型を送る機会があった。教授はこの文字を紀元前1千年代のものであると認め，当時エーゲ文明では文字がそのまま音節を表わす音節文字からアルファベットに変わっていった時代であると述べた。

セゲルト教授は国際的に評判の保守的な言語学者であり，彼がメタカーフ石を証明したことでゴードンがなした新しい発見はさらに確証されるに到った。これより以前に，ピエール・オノレという人が著書「白神の探究」(1964年ニューヨーク）の中で，ミノス文明とマヤ文明の文字の類似点を指摘している。メタカーフ石とオノレの意見とは別に，クレタ文明のファイストス（古代クレタ島の都）の円盤とアズテク文明の象形文字との間に類似点があげられる。これはノルウェーのマグナス・グロディーから出され，ゴードンの注意を引いた。

ゴードンは「マニュスクリプト」誌の中で，古代エーゲ文明の文字がメキシコ湾の3つの地域のものに近いということが，「紀元前1千年代の中頃，青銅器時代の大西洋をはさんだ地中海と新世界の交通を物語る」と書いている。さらに続けてこう記している。

「読者は，古代において旧世界と新世界のつながりが上に記され

た資料だけに限られているという印象を抱いてはならない。あらゆる方面からの事実があってこそ，古代アメリカ文明が東西の海を越えた交通により刺激を受けてきたという同様の一般的な結論に到るのである。その中でも，地中海との交通は特に創造的な意味を持っていた。このことは，紀元300年以前の中央アメリカでは，アメリカ・インディアンを彫刻の像に表わしたものがひとつもないというアレクサンダー・フォン・ウーテナウの発見により，実証されている。(像は)極東の人々やアフリカの黒人，その他地中海地方の人々特にセム人に限られている。」

ゴードンは，1872年にある人からリオデジャネイロの歴史研究所に，自分の奴隷がパライバに近いポウソ，アルトの農園で刻まれた石を見つけたという手紙と共に，カナン人の文字の写しが送られてきたことについて，ダイアログ誌に述べている。ブラジルにはパライバという場所が2カ所あり，1つはリオデジャネイロの近くで，もう1つはアフリカに向かって東に突き出たブラジルの北部をかなり入った所である。2つの場所がまぎらわしいため，石は発見されていない。しかし現在リオの法律学者エスタニスラウ・ベラがパライバの南で探している。

1968年に，マサチューセッツ大学のジュールス・ピカス教授は，1874年に写された未発表のブラジルの書き物を見つけた。そこで彼はゼロックスのコピーを取ってゴードンに送り，意見を求めた。ゴードンはその写しから，1870年代

ノルウェーのマグナス・グロディーによるメキシコ・アズテク文明の象形文字とファイストスの円盤に記されたクレタ文明の象形文字との比較

の学者にはわからなかったが以後段々と明らかになってきた資料をたくさん見出し，写しが確かなものであるという証拠とみなした。そして刻まれた文字が次の3つの点で，埋葬用碑文とは違った型で何かを記念した書き物であるとした。著者を示す序文と記念すべき事柄を述べた本文，そして神の恵みを願う終りの文の3つである。彼は次のように翻訳している。

「我々はマーカンタイル王の市から来たシドンのカナン人である。我々は山々の国，この遠い岸辺に打ち上げられた。我らの強大なる王ハイラムの19年に，天の神々と女神たちに1人の若者をいけにえとして捧げ，エチオンギバー[1]から紅海に向けて船出した。10隻の船で海に出て，2年の間アフリカ周辺を航海した。それから我々はバール（異教の神）の手によって引き離され，もはや仲間たちと一緒になることはなかった。そこで我々12人の男と3人の女は，この「新しい岸辺」にたどり着いた。船の隊長である私が逃げる男であろうか。否。天の神々と女神たちとが我々を充分に恵みたもうよう。」

ゴードンの説によると，ここで言われているハイラム王はハイラムⅠ世（紀元前900年代）ではなく，ハイラムⅢ世（紀元前553～533年）のことである。彼の治世19年に人々が故郷を船出したということから，船出の年は紀元前534年だったと言える。2年と少し経て船がブラジル(「新しい岸辺」)に着いた年は，紀元前531年であった。

「そこで」とゴードンは次のように結論の言葉を続けている。

「我々は，紀元前500年代に15人の人を乗せた1隻の船がカナンから出て，大西洋を渡ったことを知るのである。」

「バールの手から」とは「神のなせるわざにより」という意味であり，かならずしも大洋横断が嵐のためという偶然の出来事から起きたのではないとゴードンは注釈している。またどの船がアメリカに向けて出航するかを決めるために，くじ引きが行なわれたことであろう。

カナン人とはどんな人々であろうか。ゴードンの説明によると，聖書のヘブル書ではこの言葉が2つの意味をもつという。「普通名詞としては『商人』という意味になり，固有名詞ではフェニキア人やヘブル人，エドム人，モアブ人その他を含み，レバノン，シリアパレスチナに住む言語的につながりのある人々の一団を言う。」ゴードンは，決まりきった型に，はめて人々を想像するというよくある誤りを警告している。フェニキア人は皆船に乗っていたと考えられているが，事実職人や農夫もかなりいたのである。ヘブル人は「よくエホバの神を信ずる海にうとい者と考えられているが，聖書では3つの支族（ダン，アセル，ゼブルン）が海に出たことを記している。(創世記49：13，士師記5：17)」

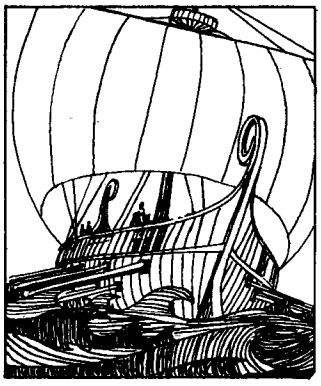
ヘブル人はブラジル遠征に出たのであろうが，書かれた物からは「今だに証明」されていないとゴードンは書いている。カナンの言語共同体には，エホバの神を信ずる者とバールの神を信ずる者とがいた。発見された書き物にはバールの神について書いてあるが，エホバについては書いていない。

これら古代の船乗りたちがカナンの地からアメリカへ向けて航海するのに使った舟がどんなものであるか，それは今もって謎である。多くの聖句から，ヘブル人やその商売相手たちがいつも長い航海用にレバノンの杉を求めていたことがわかる。ソール・ヘイエルダールは，偶然にしろあるいは計画的にしろ，アシで造った舟で大西洋横断を行なうことはできたという信念を主張している。

昨年，ヘイエルダールはエジプトのギザのピラミッドの後方で，長さ約15メートル，幅約4.8メートル，底の厚さが約1メートル35センチもある白鳥に型どったアシのかごを造った。1969年5月，各国から集めた7人の乗組員と共に彼はこの船で大西洋の港モロッコのサフィから出航した。エジプトの太陽の神にちなんでラー号と名づけられたこのアシ舟は，バルバドスを1週間ほど，約4,320キロ航海しただけで設計上の誤りから，計画を中止しなければならなかった。

自論を確信しているヘイエルダールは，今年はもう少し小さいアシ舟を，サフィの高官タイプ・アマラの中庭で造り上げた。5月17日，ヘイエルダールは夏の終りまでにユカタンに着くことを期待しながら，国連の旗を掲げ，再び各国の乗組員を集めた。この船で航海の途に着いたのである。

1．エチオン・ギバー　古代エドムの都（現代のテル・エル・カリファの村と推測される）



# フェニキア人に心ひかれて

ロス・T・クリスチャンセン博士

（コロンブス以前の古代新大陸への横断に関する新しい証拠）

多くの教会員は，コロンブス以前に新旧大陸間に交通があったという事実を立証しようと，最近いろいろな試みがなされていることをよく知っている。

これらの試みの中で最も有名なのは，ノルウェーの勇猛果敢な船乗りであり科学者であるソール・ヘイエルダールが，ラー号Ⅰ世（1969年）とラー号Ⅱ世（1970年）と名づけたアシ舟でアフリカ大西洋岸のモロッコからはるか南アメリカの北岸バルバドス島に向けた勇壮な航海である。読者も，1947年にヘイエルダールがコンチキ号で航海したことをよくおぼえておられるだろう。この航海で彼は，スペイン人が南アメリカの西岸にやって来た時に使ったとして知られている船を造って，太平洋横断の可能性を実証した。彼が1969年と1970年に行なった試みにより地中海沿岸に住んだ古代文明の人々は古代エジプトの墓の壁画に描かれている形に似せて造った船で，大西洋を横断してアメリカに渡ることが可能であったと現在はっきりしている。しかし，古代の人間の数々の横断を想像して他にもいろいろと調査している例があるが，それらの努力も共に注目に価すると思われる。ニューメキシコのサンタフェでは，1968年アメリカ考古学協会年次大会の席上，特別な呼び物として大陸間の交通に関する研究会が開かれた。研究会で発表予定の28の論文の大半は，大西洋か太平洋かのどちらかを横断して新旧大陸間に交通がもたれたという問題と直接に関連あるものであった。テーマとして発表されたのは次のようなものである。舟といかだ。トウモロコシ，豆，カボチャ，ココナッツ，さつまいも，綿，ひょうたん，ニワ鳥，陶磁器類の大陸への横断の旅。ビンランド。ケトサルコートル（アズテク族の主神）。ディフュージョニズム（散布説）[1]とインディペンデント・インベンショニズム（独立発見説）の論争。

中でも末日聖徒であるジョン・L・ソレンセン博士が，140項目にわたって大陸間交通の特徴をあげ，21の種類に分類した論文は意味深いものであった。彼はこう結論を下している。「中央アメリカ[2]文明は，多くの点で近東に源を発している。」

現在出ている証拠では，コロンブス以前の2つの半球にまたがる交通で大きな役割を果たしているのはフェニキア人であると考えられる。この学説から，ある学者たちはフェニキア人の文明に大いに関心を寄せ，古代における大西洋横断を証明する証拠を非常に知りたがっている。

末日聖徒も，聖書とモルモン経の両方からこの事実に興味を覚える必要がある。事実，後者のモルモン経に出てくるミュレク人は大体人種的にフェニキア人と同じ起源であるという可能性が強い。

では一体フェニキア人とはどんな人たちで，聖書やモルモン経に出てくる人々とどんな関係があるのだろうか。フェニキア人の文明は，セム族に属しその原語は先祖のヘブライ語に一致する。またパレスチナ北部からキプロス島の対岸に当る地点まで，地中海の東海岸沿いに本拠地を置き，カナンとして知られた地に住んでいた人々の1派である。歴史的に見て，彼らはカナン人と考えられるし，そう呼ばれていた。現在レバノンの人々はおそらく彼らの最も純粋な子孫であろう。紀元7世紀頃に回教徒に征服されて言語はアラビア語ではあるが，レバノンの人々は自分たちが正真正銘フェニキア人であるという自覚をもっている。

聖書にはフェニキア人に関することが数多く載っている。最も参考になる聖句は列王記，歴代志，エゼキエル書

に見られる。ツロのヒラム王とイスラエルのダビデおよびソロモン王とのすばらしい友情を思い出していただきたい。ツロは当時フェニキア人の最も大きな王国であり，ツロ人およびシドン人（フェニキアのもう1つの大きな都市であるシドンの人々）という言葉はフェニキア人と同意語であった。

「……**レバノンの人々は自分たちが正真正銘フェニキア人であるという自覚をもっている**……」

ウィリアム・F・アルブライト博士が最近発表したことによると，フェニキア人が地中海地方を遠征し，植民地を開発した全盛時代は，ダビデ王が紀元前990年にペリシテ王国を滅ぼした直後に始まったという。王国が滅ぼされたことに伴い，イスラエルだけでなくフェニキアも自由の地となったのである。いずれの場合にせよこの後すぐに，地中海だけでなく遠く西のスペインまでフェニキア人の活動がおよんだことがはっきりしている。

後に，アッシリアの王サーゴンⅡ世が紀元前721年頃にイスラエルの北部民族を奴隷として引いて行く時に，フェニキア人も一緒に征服したのである。以後フェニキア人は再び力を得ることはなかった。しかし，紀元前572年にバビロンの王ネブカデネザルがエルサレムを滅ぼした直後にフェニキアを征服してから，彼らは自由な民となった。

以上のような聖書の簡単な背景と共に，モルモン経の中の可能性について少し考えてみよう。ニーファイ人の聖典には，古代近東から3つの異なった民がやって来たことについて記している。すなわちジェレドとその兄弟，リーハイそしてミュレクの3つの民である。この「ミュレク人」とは一体どんな人々なのか。モルモンはこの子孫たちを「ゼラヘムラの民」（オムナイ1：14）と言っているが，いったいどんな人たちなのだろうか。聖書の著者たちには名の知れなかったゼデキヤ王の若き息子ミュレクがバビロンの怒りをまぬがれたという彼自身についての話以外に聖典には何の答えものっていない。彼はもちろんダビデの家に属するユダヤ人であった。しかし，彼の移民団とはどんな人々なのだろうか。

もしあなたが王家の若き王子の後見人として王子の命を守るよう言いつかっており，王の他の息子たちは集められて父親の前で殺されたことを知ったとする。さらに王の最後に見るものが自分の血肉の死となるようその目をつぶされたとしたら，あなたは思い切った行動に出るに違いない。（列王紀25：7，エレミヤ39：6～7参照）

もし海を渡って国を去ろうとしたらだれの助けを求めるだろうか。当時最も卓越した船乗りとはだれであろうか。フェニキア人である。紀元前約660年頃，アフリカ大陸を歴史上初めて周航したのは，フェニキア人であった。これはゼデキヤの生きていた時代に，エジプトのパロ，ネコⅡ世の指揮のもとに行なわれた。6世紀以後，1498年にポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが航海するまでの2,000年間というものは，そのような大きなことは何ひとつ行なわれなかった。

もちろん，ミュレクがフェニキア人の船乗りの助けを受けて脱出したというのは仮説にすぎないが，この見解はモルモン経に出て来る大きな水路の名がシドン川ということを考えてみても事の本質をついていると思う。実際のところ，シドン川は記録にある唯一の川である。ニーファイ人はなぜ自分たちの主要水路に，フェニキア人の本拠地の首都であるシドンという名をつけたのだろうか。その答えとして，おそらくニーファイがその名前をつけたのではなく，ミュレク人がそうしたのだと言えよう。ニーファイ人の記録で初めてシドンという名が出ているのは，モーサヤ王が紀元前200年頃にその民を山の王国から連れ出してゼラヘムラの都を見つけた時のことであった。

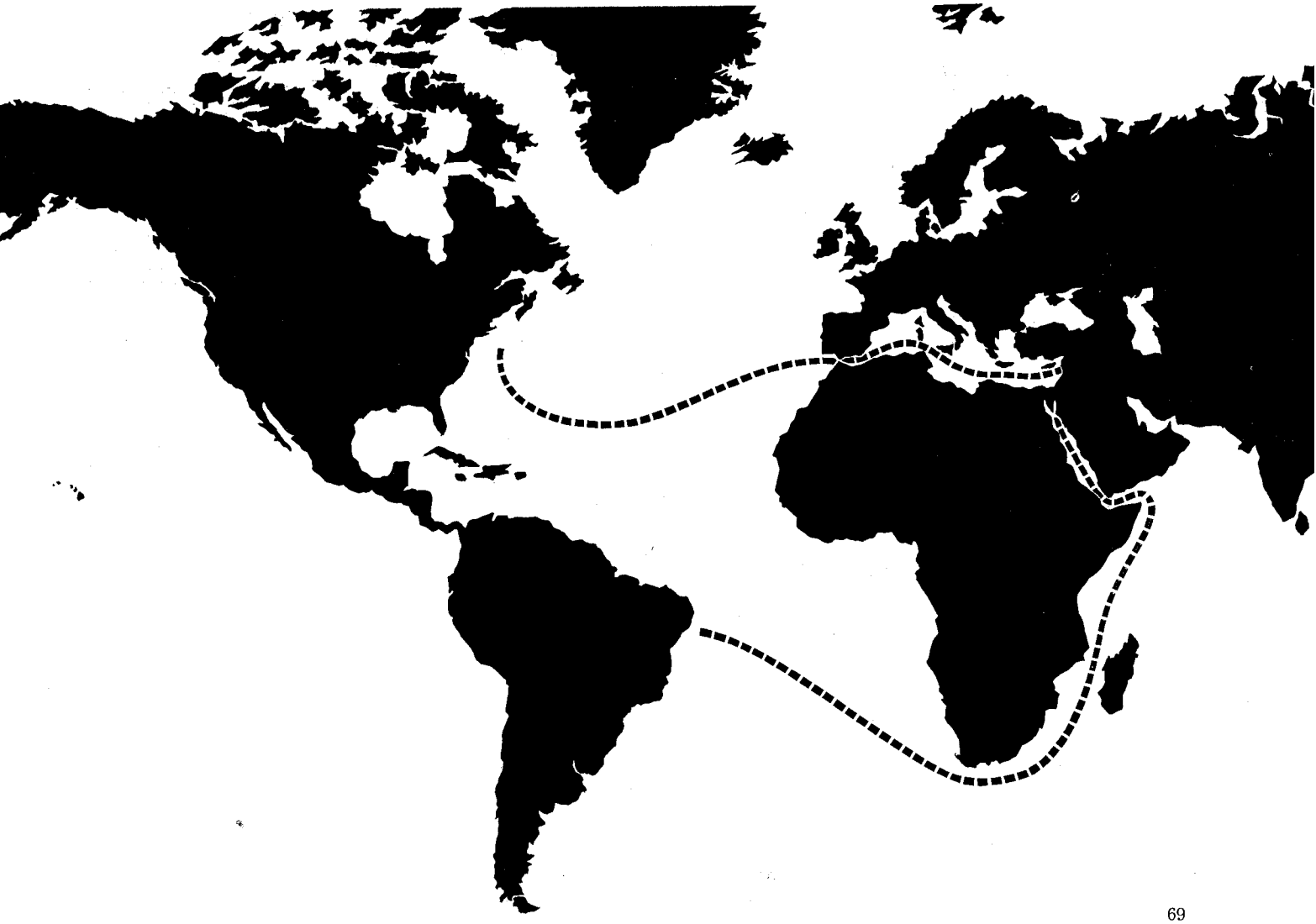
オムナイは（17，18節）新しく発見されたミュレク人と接するために，ニーファイ人の言葉を教えるまでの歳月の経過があったと記録している。それは，4世紀にわたる交通のしゃ断で，共にヘブライ語から発していると思われる2つの言語が著しい違いを生じたことを意味している。しかし，ミュレク人の原語がヘブライ語ではなくフェニキアのものであったと考えるのは核心に近いと思われる。ヘブライ語に非常に似てはいても，紀元前600年にははっきりとわかる程に違いが生じていたのである。400年を経て，2つの言語は互いに通じ合わないまでにそれぞれの場で変化していった。

モルモン経（アルマ63章）にあるハゴツの話と，フェニキア人とカーセージにおけるその子孫たちの歴史には，きわ立った類似点が見られる。ハゴツが取った海路による移住方法は，古代イスラエル人の間では見られないこと

であった。しかしフェニキア人の間では行なわれていたことで，フェニキア人の海に対する心がまえや態度は紀元前55年頃，少なくともハゴツの時代までの何世紀かにわたってミュレク人の間に続いていたと考えられる。

モルモン経の中に見出される興味深いフェニキア人の特徴を別にしても，フェニキア人の船乗りたちが大体紀元前1,000年から500年の間，すなわちその全盛期に新大陸の他の場所に着いたという可能性は段々強くなっている。事実，ニューイングランドからブラジルに到るまで，フェニキア人の刻んだと思われる遺跡を地図の上に数多く見出すことができる。しかし大西洋岸に発見されているこれらの書き物は，恐らくモルモン経の人々とは関係ないのであろう。それは，ニーファイ人の聖典とは関係なく他の旅行者が訪れたことをはっきりと示している。

1872年にブラジルで見つかったパライバの書き物は，その驚くべき例である。この記念すべき書き物はフェニキア人の言葉で記されていた。それはシドンを出発し，紅海に向けてアフリカを右まわりに航海した船が仲間の9隻の船と南大西洋で離れ離れになり，おそらくホアオ，ペソア近くの南アメリカ東端に上陸したと思われる一団の航海について書かれてあった。ブランディーズ大学のサイラス・H・ゴードン博士が1968年に始めた研究によると，パライバの書き物には実際に近東から古代アメリカに航海したことがはっきりと記されていて，出発と上陸の日付と場所まで正確に知ることができるのである。紀元前534年，シドンにて乗船。紀元前531年，ブラジルの海岸に上陸というように。モルモン経とは関連ないように思えるが，この航海がリーハイやミュレク，そして偶然にもエ



ジプトのネコと同じ世紀に起こっていることに注目されたい。

フェニキア人にもモルモン経にも全く関係はないが，おもしろいことにニューハンプシャー南部のノース・サレムに近い樹木のうっそうと茂った地域にミステリー・ヒル（謎の丘）と呼ばれる場所があることが発見されたのである。ニューイングランドの75箇所以上もの地で，似たような荒削りの石細工による建物が見つかった。これら謎の遺跡に目立つ特徴は，持出しのついた天井と「ハチの巣型」の屋根である。

ニューイングランドの遺跡はインディアンが建てたという人がいるが，それはインディアンの文化に全然通じていない人の言葉である。また英国の血を引く初期のニューイングランドの農民が建てたのだと言う人もいる。しかし，移民してきた農民たちが後年になって馬小屋や野菜の貯蔵庫としてその建物を使って残したとはいえ，彼らが始めて建てたのではないことははっきりしている。この奇妙な遺跡は，建築様式から見ても英国的とは言えないのである。ある作家は，ミステリー・ヒルがバイキングから逃れたアイルランド僧の一団の手によるものだと信じていた。アイルランド僧は遺跡のある地に住んでいただけで，彼らが建てたのではないと信じている作家もいた。

しかし，以上のような説明はひとつとして合点がいかない。最近，放射性炭素による年代の測定でかなりはっきりしてきた。ミステリー・ヒルは紀元前1000年頃のものであったらしく，青銅器時代の西ヨーロッパにあった「巨石文明」に関係ある移民たちが，大西洋を横断したという証拠になる。

1970年7月18日の「サタディー・リビュー」紙に，「古代アメリカ大陸への上陸：アメリカインディアンのある種族は，聖書のヘブル人と同じ先祖を持っていたと考えられる。」という題でジョン・リァー氏が記事を書いている。彼はその中で，ジョセフ・B・マハン，Jr. によるジョージア州ユチ族の研究成果とサイラス・H・ゴードンによるブラジルで見つかったフェニキア人の書き物の再研究，そしてソール・ヘイエルダールによるアシ舟での大西洋横断の成功など，たくさんの証拠となるものを発表している。著者は，「このような研究に基づいた確かな結論も，数年前には『だれからも相手にされなかったであろう』。」と述べていた。しかし，今年の夏まだヘイエルダールが洋上にいる間に，リアーは論文の中で「科学界ではこの説の真実性を証明するものであるという意見がもっぱらになっている。」と書いている。そして彼の記事を読むと，彼のみならず科学界の多くの人々が現在までの進歩に深い感銘をおぼえているのがわかる。

これは末日聖徒にとってどんな意味があるのだろうか。新しく出てくる証拠は聖徒たちを喜ばせるものである。100年以上にもわたって，聖徒たちは以上のようなことを主張してきたにもかかわらず，世界からもあるいは学者たちからも「相手にされ」なかった。今や，コロンブス以前に古代東方から人々が渡ってきたという説も科学的に立派なものとなりつつある。この説を支持する発見が数多くなされ，モルモン経に出てくる人々と関連はなくとも末日聖徒が信ずるジェレド人，リーハイ人，ミュレク人の新大陸への渡来は20世紀になって初めて学者が受け入れつつある説と一致するのである。予言者ジョセフ・スミスも，昨今の出来事の移り変わりと学者たちのそれに対する反応に，きっと大きな関心を寄せているに違いない。

1，ディフュージョニズム（散布説）
　—人類学上の理論：文明の類似点が広く分散しているのは歴史的に交通があった証拠であるとする理論。

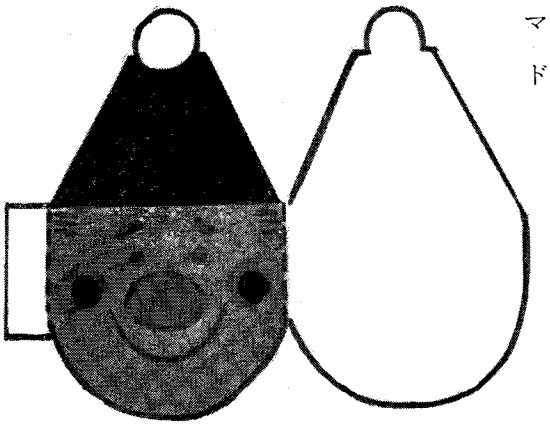
2，中央アメリカ
　—北米の北部中央からニカラグアにいたるまでの地域。

ロス・T・クリスチャンセン博士はブリガム・ヤング大学で考古学と人類学を担当し，1968〜69年にかけてフェニキア文明の研究を手がけてきた。オレム35ワード部では福音の教義クラスを教えている。

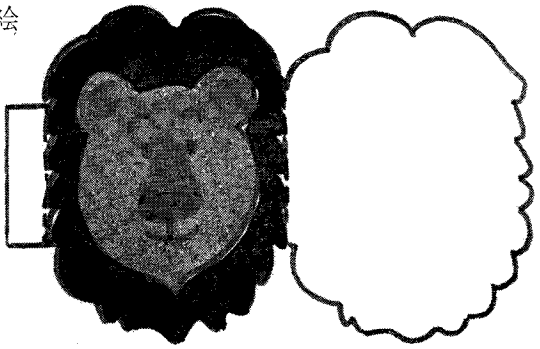
※このフェニキア人とミュレク人に関する仮説の主要概念は，数年前にジョン・L・ソレンセン博士と話した時に得たものである。私の知る限りでは，この件に関して最初に印刷物に発表されたのは，インプルーブメント・エラ誌（1957年5月号）第60巻，P.330〜331である。ソレンセン博士は，ブリガム・ヤング大学の学生のころ，考古学の教授であったM・ウェルス・ジェイクマン氏からエラ誌を手に入れたのであろう。

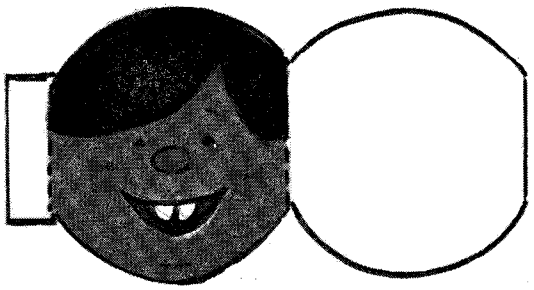
# ゆ び に ん ぎ ょ う

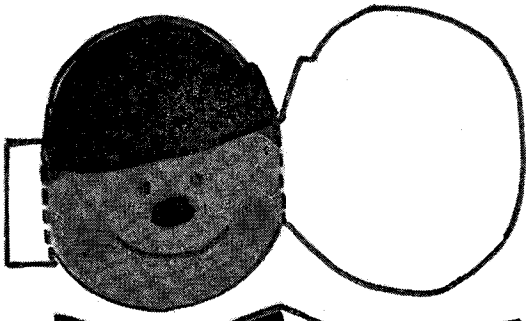
マリアン・マイナー：作
ドロシー・ワグスタフ：絵



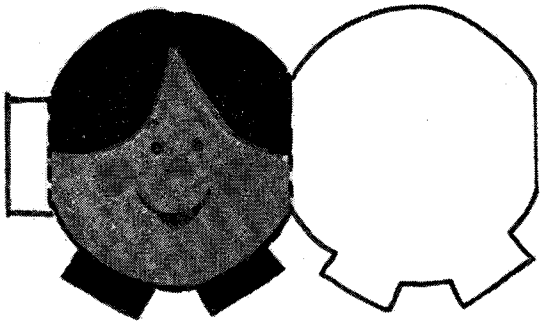
色をぬり
切りとって
たたんで
のりをつけて
しばいを作り

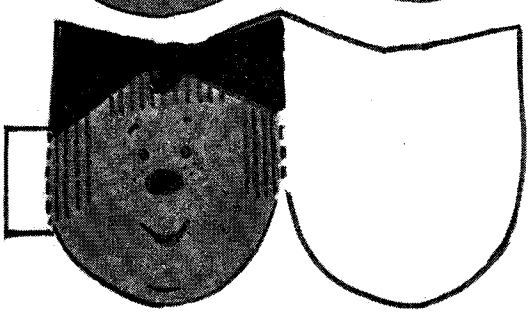






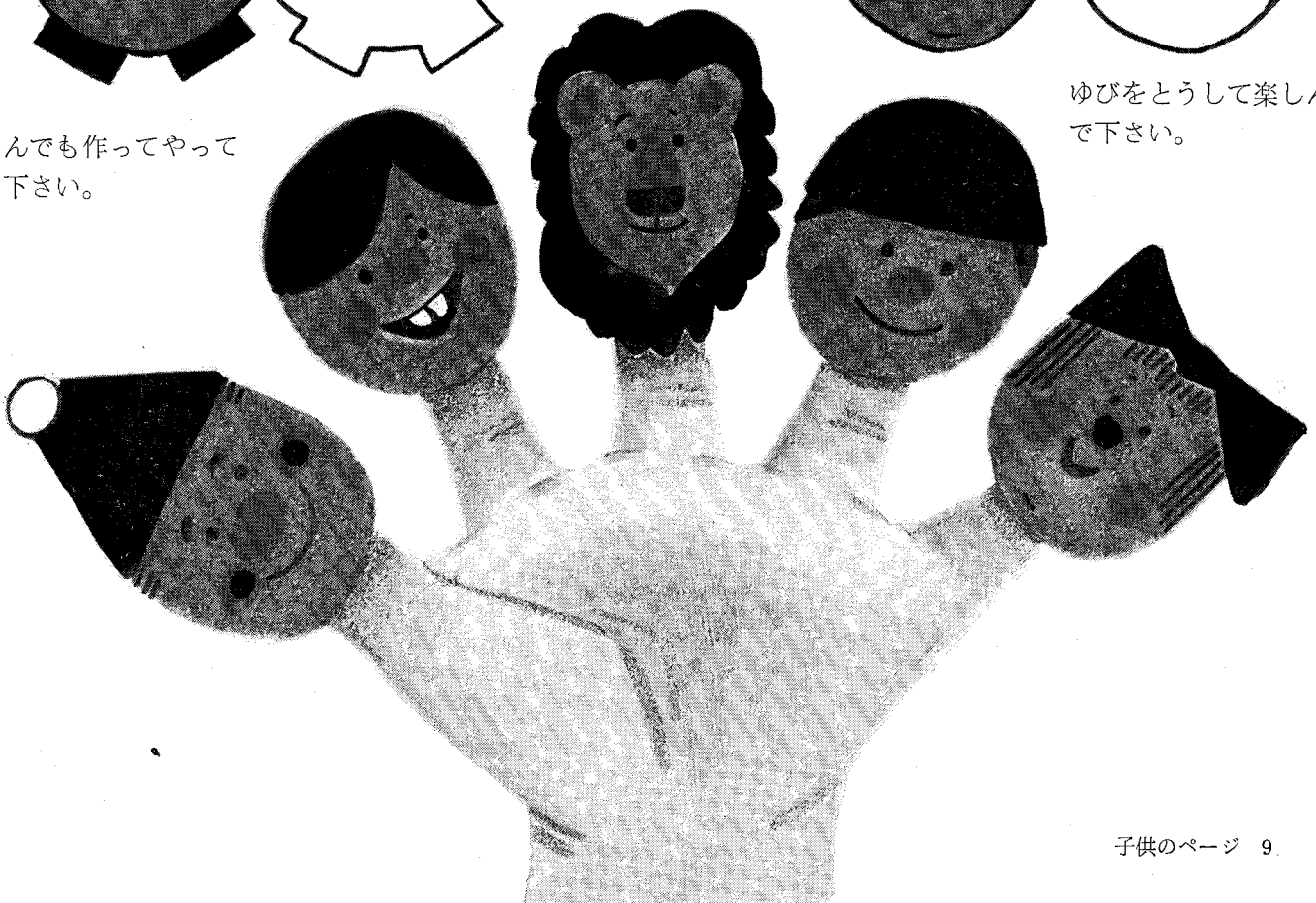
じぶんだけのにんぎょうげきをやってみて下さい。





ゆびをとうして楽しんで下さい。

じぶんでも作ってやってみて下さい。



# ネブ少年のマーク

ロザリー・W・ドス

「さあ，もっと早くやってくれ！」とカレブじいさんは大声でさけびました。

「さっさとしないと粘土がかわいてしまうぞ！」とじいさんは，ワラとまぜるために，大きなバケツにはいった粘土を，たるにいれました。

ネブ，ヨラム，ルシアスは，足ぶみをしながら粘土とワラをまぜました。よくまぜてから，手でこね，それから粘土を小さくちぎり，い型にいれて，レンガの形に造りました。

三人の少年とカレブじいさんは，パレスチナで長い間レンガ工場をけいえいしているハーマンさんのところで，はたらいていました。少年たちは，レンガ造りの見習いとしてきていました。レンガ造りは，つらいうえに，とてもきたない仕事です。レンガは，粘土がしめっているうちに，手早く造らなければなりません。粘土をい型にいれてからは，日あたりのよいところに，一列にならべてほします。

ちょうど，五列めのレンガが並べられたとき，ハーマンさんが工場につきました。彼は，ほしてあるレンガの列のあいだを歩いていましたが，とつぜん立ちどまりました。ハーマンさんは，ふちがばらばらになりはじめた数個のレンガをゆびさして，

「どこの建築家がこんなレンガを買ってくれるのか！」とどなりました。

「じぶんの仕事にもっとほこりを持ってやらなければ，しょうがい見習いで終ってしまうぞ！」ハーマンさんがいってしまうと，ヨラムは

「ハーマンさんたら，ぼくたちにとてもせっかちにきたいしすぎるよ！」と泣きごとをいいました。

「ハーマンさんのところで働らくのは骨のおれることだね！」とルシアスがあいずちをうちました。

「ぼくの両親は職業をみにつけるようにと，ハーマンさんのところに見習いとしてぼくをこさせたけど見習いがおわったら，二度とレンガはいじらないつもりだ。そしてもっとらくな職業を見つけるよ。」

けんめいなカレブじいさんは，ルシアスにいいました。

「どんな職業をえらんでも，りっぱな仕事をしなければ，けっして成功できないよ。ハーマンさんは，気むずかしい親方じゃないよ。きたいしていることはただ，りっぱな仕事をすることだけだよ。ハーマンさんは，とくに良い仕事をすればほうびにボーナスもくれるが君たちは，まだ，だれもボーナスをもらっておらんじゃろう！」

「ぼくはもらおうと思っています。」とネブがいいました。

「どうしてなんだい？」とルシアスがききました。

「そんなことをしたって，たった数セント多くもらえるだけじゃないか。」

「ネブよ，ルシアスがそういったからといって，やる気をなくしてはいけないよ。」とカレブじいさんはいいました。

「たとえ，ボーナスが少なくともな，おまえたちは良い仕事をおぼえとるのじゃから，できるだけ，それをはげみのために，利用するのじゃよ。」

「フーン！」とルシアスは鼻をならしました。

「じいさんは，バカだよ！」とジョラムは，じいさんをわらいました。

ネブはなにもいいませんでしたが，それからというものは，いろいろなことに注意してレンガを造りました。やがて，くだけやすいのや，ふちにむらのあるレンガはなくなっていきました。そして一つ一つのレンガのかどには，親ゆびのつめで三枚のあしの葉ににているマークをいれました。

「どうしてこんなマークをレンガにいれるのだい。」とルシアスがききました。

「ぼくは石に字をほる人のようにうまく書けないから，こんな小さなマークをいれたんだ。いつか，ぼくがりっぱな建物の前を通ったとき，ぼくの造ったレンガが見つけられるかもしれない。そうしたら，ぼくはとてもほこりに思うだろうな！」

「君は，カレブじいさんのようにバカなことをいうんだね！」とルシアスがいいました。

「そうだよ，ぼくたちが造るレンガが，どうあろうといったい，だれが気にとめてくれるのかい？」ヨラムはききました。

「こんなマークをいれたら，めんどうなことになるよ。」とルシアスはネブに注意しました。

ネブはただ笑うだけでした。じぶんが造ったレンガをとてもほこりに思っていました。そして彼にはゆめがありました。彼のゆめがルシアスとヨラムにしれたら，二人は，きっとネブをあざ笑ったことでしょう。ネブはレンガを造りながら，レンガ造りの見習いをそつぎょうしたあとで，建築家になれたらどんなに素晴らしいことだろうと考えていました。

そうしたら，彼は水道やりっぱな神殿や，じょうぶでしっかりした家を建ててみよう。そしていつか，じぶんでせっけいした建物を建てられるかもしれない。そんなことはありえない。ここまでそうぞうの世界をひろげると，ネブはゆめをおうのをやめて，ため息をついて，べつのレンガをみがきおえるのでした。彼はただのつまらない見習い工なのです。ハーマンさんの大きなレンガ工場のかたすみで，われにかえった彼は，ただ多くのレンガがほしてあるいがいに，なにもないことに気ずくのでした。しかし日がたつにつれて，ネブは，レンガ工としてのうでをあげていきました。いっぽう，ヨラムとルシアスのレンガは，けんさになんとかごうかくするていどのものでした。ある日，ハーマンさんは大またで歩いて工場へやってきました。彼はなにかやっかいな問題でもあるように見えました。

おまえたち！」ハーマンさんは少年たちにいいました。

「私の工場からだしているレンガのうち，レンガのすみに小さなマークをいれるのは，いったいだれだね！」

ネブの足はふるえだしました。ハーマンさんはあのマークをレンガのきずだと思っているのだろうか？こん度こそはかならず，どなられるぞ！そして，もしかしたら，レンガにきずをつけたと，ぶたれるかもしれない。

ネブが返事をしないうちに，ヨラムはネブをせめるようにゆびさしました。

「そのマークはネブがいれたのです。」うしろからルシアスがネブにささやきました。

「ぼくたちは，君にこんな落書きをすれば，めんどうをおこすだけだといったじゃないか！」

「はい，ぼくがそのマークをいれました。」とネブは，つとめて声をおちつけながらいいました。

「べつに悪いことをしたと思ってはいません。」

「どうして，マークなんかいれたんだね！」とハーマンさんは，きょうみぶかそうに聞きました。

「ぼくは仕事にほこりを持っています。いつかぼくのレンガが，りっぱな建物のいちぶになっているとき，どれがぼくの造ったレンガか，すぐわかるように，そのマークをいれました。」

「君のレンガはすぐにわかるよ。」とハーマンさんはいいました。「私の一番のお客さまであり，建築家のシモンさんは，マークのはいっているレンガがほかのよりもじょうぶでしっかりしていることをみとめてくれたのだが，特にレンガの表面がなめらかで，むらのないことやレンガの角がていねいに細工されていることを喜んでおられるのだよ。彼がいうことには，一つ一つのレンガが芸術だからとのことだ。」

「シモンさんが喜んでくださるなんて，ぼくは本当にうれしいです。」とネブはいいました。でも，なぜハーマンさんはネブにそんなことを話しているのでしょうか？

「おまえがじぶんの仕事をほこりに思うのはもっともだ。」と親方のハーマンさんはいいました。

「シモンさんは，おまえが建築の仕事をおぼえるために見習いとしてくるように，のぞんでいらっしゃる。彼は，仕事にほこりを持ち，さいのうを持っている若い人をいつも探していらっしゃるのだよ。」

「ぼくはとても建築の仕事を習いたいと思っています。」とネブはいいました。彼は喜びでいっぱいになり，言葉がうまくでてきませんでした。

ネブの心には，とっさにひとつの考えがうかんできました。そしてネブはえんりょがちに，こうたずねました。

「この見習いきかんがおわらないうちに，シモンさんのところへ行くのをゆるしてくださいますでしょうか？」

「いいとも，シモンさんのように良いお客さまのためになら，ことわりはしないよ」とはじめて笑いながらいいました

親方はまじめ顔になって，ルシアスとヨラムの方を見て

「おまえたち二人とも，このことをみならいなさい。」

そして，「これからはもっと良いレンガを造ることだね。できなければそのわけを私はききただすよ。」

「はい，やります，やります。」と二人はいっしょにいいました。二人はハーマンさんが気ながに，にんたいしていてくださるのを知りました。

「さて，だれがバカな年よりかな？」といってカレブじいさんはようきに笑いました。

「ここに，みらいのいだいな建築家がいる。ネブはしょうじきで，りっぱな仕事をする人として世の中に知られることじゃろう。」

ネブはえがおをカレブじいさんにむけながら，そのとおりになればいいがと思いました。ネブのゆめは明るく大きくなりはじめました。いっしょうけんめいに働けば，ゆめは実現するんだ！建築家「ネブ」！ああ，なんてよいひびきだろう！

# 教会と若者たちが直面する現代の問題

管理監督　ジョン・H・バンデンバーグ

指導者たちの言葉によると，現代は選ばれた世代である。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう言っている。「神はすべての創造された霊たちの中から，息子娘たちである少数の選ばれた霊たちをとっておかれた。彼らはこの地を受け継ぐ者たちである。そしてこの選ばれた霊たちは，末日に出で来たり，この時満ちたる最後の神権時代に肉体をもって存在し，また地上における神の王国を組織し，築き，守るために，6千年の間霊界にとっておかれた。……」（「我々の血統」P.4）

主が選ばれた霊たちをこの時期に送り出すようとっておかれた理由は容易にわかる。天の王国を建設するためには，当面の問題として，神の王国を進展させる働き手となる勇敢な人々が必要である。

これを達成しなければならないのに，その状況がいろいろな点でかなり悪化している。社会的な価値観や道徳的な教えがかなり無視され，政治家や教育者，また牧師でさえ，古代と現代の聖典に見られる生活の規則を拒むようになってきた。また人間の限られた知恵から出る浅はかな結論が，神の永遠に及ぶ知恵にとって代っている。自然科学が急速に進歩してきたために，多くの若者は神を見失うようになり，若者たちが道徳や倫理の基いとせざるを得ないような価値観や標準を決める見せかけの科学が出てきた。そして若者たちは，法を無視したり，暴力や混乱，あるいは人の自由意志を犯して社会問題や政治問題を解決しようとするいわゆる「活動家」たちから，うるさいほどの誘いを絶えず受けている。

これらの力は人は神の子であることを認めず，この世に存在する目的と死後の存在の可能性をも否定するものである。

現代は「すべてが手軽な」時代だと言われている。昔は幸福を得るために，忍耐や努力を惜しまなかったが，現代ではそれが安直な科学の力に頼るという，進歩を妨げるものにとって代わっている。覚醒剤や興奮剤，鎮静剤，睡眠薬，またおそらくどんな霊的な力を受けてもそれを感受することができなくなってしまう幻覚剤といったものが，合法的にあるいは非合法的に売られすぎている。

昔に比べてどんな知識でも取り入れられるし，今日の形式的な教育に伴う強制も加わって，若人は早くから宗教的，社会的，政治的活動に広く参加し，責任を担う備えができている。自分の生活および社会の問題を解決するために，力を使う方法が教会内に見つからなければ，若人たちはその力を発揮する場を教会外に求めるであろう。

若人たちはできるだけ小さい時から，教会内で霊的に満足する活動を経験し，人々と交わる機会をもつべきである。また幼ない頃から，神権活動や補助組織の活動を通じて自ら努力を払い，人のために犠牲を払うことにより，絶えず真の霊的な喜びを経験しなければならない。そうしてこそ，彼らは周囲にある肉体だけでなく精神をも滅ぼす力に対抗することができるようになる。

デビド・O・マッケイ大管長はこのような訓練の必要性を次のように強調している。

「ワード部の霊性は，そのワード部の青少年の活躍にかかっている。祭司定員会の会長は，監督であり，聖任の際にすでにその任についている。これら若い男子と同じ年令の少女たちの信頼を得ることも監督の義務である。なぜなら，若人がワード部の道徳的な雰囲気を作りあげていくからである」

教会にはチャレンジに応じる備えがある。今日，肉欲的なものに満ちあふれている世で，道徳的また霊的な荒波に，もまれても耐えられるよう，子供の生活に望ましい動機や誠実さや信念を植え付けるうえで必要な家族との密接なつながりと良い家庭環境を築くための助けが，家庭の夕べやホーム・ティーチングのプログラムを通して両親に与えられている。

アロン神権個人業績達成プログラムやそれに相当する若い女性のためのプログラムによって，若人は自分の目標を定めることができる。そしてこうした個人の責任を行使することは，若人が両親や教会の指導者とさらに心を通い合わせるだけでなく，人格形成をはかることにもなる。

管理監督会に任せられた教会スカウト委員会は，スカウト活動をアロン神権の活動プログラムとしてさらに効果的で補助的なものとし，また神権組織とスカウト活動組織の両面で成人指導者を強化するであろう。

セミナリーとインステチュートによって，毎日約14万人にも及ぶ世界中の若人に宗教教育が行なわれている。ここで学ぶ生徒たちは，日々こうして互いに接し，学び，また聖典の教えを生活に生かす方法を知ることによって，身に受ける誘惑にうち勝とうという決意を新たにすることができるのである。

若人を教会活動に参加させ，指導者として養成するために教会が用意している最も効果的な方法の1つとして，監督の青少年委員会がある。その主な役割は，アロン神権および補助組織のプログラムが効果的に行なわれるよう，プログラムに地域性をもたせる方法や手段を最大限に若人に伝える場を提供することである。この監督の青少年委員会を通じて，若人は将来の教会の指導者として，信仰と証を強めるためにその精力を使うよう指導される。

監督の青少年委員会を効果的に利用した例は，最近ソルトレーク市地域で行なわれた「よきサマリヤ人」プログラムの成功に見られた。教会の若人たちは，他の宗派の集会場建築資金を集めるよう依頼を受けたのである。参加者の代表たちは，このプログラムが楽しいものであったこと，またすばらしい案を計画し，実行したことにより自分たちも役に立つことを証明できたことへの感謝を述べていた。彼らは実によく働いた。そしてプログラムが終了した時，自分たちが奉仕した人々だけでなく，共に働いた人々との間にも愛と理解が深まったことを知って少なからず驚いたのである。

若人は同胞が必要としていることに対して関心を抱き，心から助けたいと思っている。また彼らは理想家で，感じやすいのである。末日聖徒イエス・キリスト教会では若人に，神権と補助組織の中で奉仕と犠牲を学ぶ機会を与えている。若人が神と同胞のために働く時，サタンの策略を防ぐ盾を身に備えているのである。

# 私を心から愛しているのなら

親愛なるジム

夕べ私は「あなたを愛していることを証明するように」とあなたにせがまれました。あなたは大変説得力がありました。それに私はいつも，あなたを喜ばせたいと思っているし，あなたが望むことならなんでもしてやりたいと思っているので，ことわるのがとてもつらかったのです。

でも今私は，あなたの言うとおりにしなかったことに対して恐れの気持ちもありますが，むしろよかったという気持ちでいっぱいです。もしあなたの望む通りにしていたら，今頃私は自分を軽べつし，またあなたをも憎み，非難しているでしょう。

眠れぬまま一晩中いろいろ考えました。「純潔」という言葉は，なんと輝かしく美しい言葉なのかとずっと考えていました。もしあなたの説得をきき入れていたなら，今頃私はきっと自己嫌悪と絶望に耐えられないでいると思います。

何節かの聖句が一晩中私の心をかすめ，それらはかつてないほどに意義深いものに思われました。最初に思いついた聖句は次のようなものでした。

「われ主なる神は女子の貞節を喜ばしく思えど，みだらなる行いはわが目にけがらわしきことなり。」（ヤコブ２：28）今私はその聖句が私にもあてはまることを思い，深い感謝の念が私の胸に湧いてきます。どういうわけか真夜中に起き出して，暗記していた聖句，モルモンがその息子モロナイにあてて書いたモルモン経の中の一節を，開いて読んでみました。モルモンがレーマン人の娘たちに対するニーファイ人兵士の残酷さを語ったときの，モルモンの恐れと悲しみをあなたにも理解していただけるでしょう。

「私の味方はレーマン人の娘を数多くとりこにして，その娘たちから最も貴くまたほかのあらゆるものよりも重んずべきものを奪い，すなわちその貞淑を汚してから……」（モロナイ９：９）

「最も貴くまたほかのあらゆるものよりも重んずべき貞淑」というモルモンのこの言葉は，今私の心を燃え立たせています。あなたが私に愛を証明させようとして私に求めたのは，このことでした。あなたの求めていたものがどういうものか，少しでもわかってもらえるでしょうか。もしだれかがあなたの自慢の新しいスポーツカーを，愛している証拠として欲しいと言ったら，あなたは何とおっしゃるでしょう。きっと，冗談を言っていると思うに違いありません。その時もし，その人が真剣に求めていることを知ったなら，その人を気違い扱いにすると思います。車を与えたとしても，また一年もたたないうちに他の車を買うことができます。しかし，もし私が純潔という賜をあなたに与えたとしたら，私は一生後悔するでしょう。そしてあなたも純潔を失うことになるのです。

箴言の中でソロモン王は言っています。

「だれが賢い妻を見つけることができるか。彼女は宝石よりもすぐれて尊い。その夫の心は彼女を信頼して，収益に欠けることはない。」（箴言31：10—11）

もし私たちが，今そうでないとして，いつか結婚するとしたなら，あなたは私を信頼できると思いますか。あなたにはその答えがわかっているはずです。ジム，私はいつもいろいろあなたのことを考えています。でも，もう，私はあなたを信頼できそうもありません。夕べあなたはほんのつかの間の快楽と刺激から私の純潔と自尊心と将来の真の幸福を打ちこわそうとしました。あなたが私に愛を証明させようとしたことは私を辛らつにあざけったことなのです。あなたは私を愛していないということを証明したのです。あなたは自分だけを愛しているのです。

エリザベス

# 災厄の問題

ウィリアム・E・ベレット

今から2，3か月前のある日，私は癌のため他界しようとしている親友の枕もとに座っていた。彼は非常に苦しみ，私も深い心痛を覚えたが，まもなく彼は世を去った。

その時に，私はジョセフ・シズー博士の語ったひとつの出来事を思い出したのだった。博士は，まだ幼い少女が病いに身もだえして苦しみ，そのかたわらで両親が気も狂わんばかりのありさまで，見守っているという場にいあわせたことがあった。シズー博士はこう述べている。「私はその御両親に，医師に知恵を与えて下さるよう神さまに，祈りましょうと申しました。そして一人娘であるその少女を，よく承知しているかのように愛の御方である神さまにゆだねましょうと勧めました。すると奥さんがキッとした顔で振り向いて，『こんな小さな子をこのように苦しませる神さまなんぞに祈れるものですか。私なら犬さえもこんなふうにさせられませんわ』と言われました」「(生きる価値ある人生に)」P112)
Make life Worth Living

「遺憾ながら」という言葉で始まる合衆国国防省からの通知を親たちは毎日受け，息子を戦争で亡くして衝撃と悲しみにうたれている家族がある。地上には恐ろしい自然の災害が数限りなく起きている。つい先だっても地震によって多くの生命が失われたばかりである。また，40名ないし60名の乗員もろとも2隻の潜水艦が地中海に沈むという事件があった。

世界にはさまざまな災害があり，多くの人が「神はどこにいるのか。戦争を許し，災難で人を見殺しにし，大学構内の塔に登って学生たちをライフルで殺すような者を野放しにしておく神は？　もし神があるなら，どうしてこんなことが起きるのか。神は無力なのか」と叫んでいる。これらの疑問は遅かれ早かれ大勢の人が抱く疑問であ

ウィリアム・E・ベレット博士・教会の宗教教育機関であるセミナリーとインスティテュートの管理者であるウィリアム・E・ベレット博士は，経験豊かな法律家として長年宗教教育の発展に尽してこられた。彼はまた教会の歴史と教義について，多くの本を書いている。

る。人々は答えを求めている。私は，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員こそその答えを知っていると信じるのである。

そういった害悪の問題を理解する上で人々の陥るむずかしい点のひとつは，彼らが神とはどういう御方で，神と我々との関係はどういうものかということを，誤まって理解していることである。神は全能だという言葉を，神には何でもできる，神は全能であるからすべてのことを知っており，全能であるからどこにでもいるというように理解しているのである。この言葉はクリスチャンが昔から神を描写するに際して用いてきた言葉である。だが，わが教会の誇る著作家，故B・H・ロバーツ長老は何年か以前に，神は必ずしも，丘なしに谷を生じさせるといったふうには全能でないと指摘した。またある宣教師は，「神さまは10歳の馬を1分で作ることはお出来になりません」と言った。神は律法に調和して働かれるのである。神は自ら努力しない人を偉大な人物とすることができない。神はそのような力を持っておられないのである。力はその人の内部に存在する。もし数分のうちに，神が全時代の知識を我々に注いで下さるとしたら，学問とはいかに簡単なものであろう。だが同時に，そのような学問は何と価値の低いものであろうか。神は律法の枠内で働かれるのである。

我々は天父の業をはばむことはできない。地と地につけるものとに新生を与え，人がそれに伴う栄光を受けて不死不滅をかちえんとする新しい王国を造られる神の力をはばむことはできない。我々は実在の神について語る時に，神は霊であってただ影響力が存在するだけの一個の御方ではない，なぜならもしそうであるとすれば場所や時など当然そこには限界があるはずだからであると考えがちである。しかし，いったん神と神の律法とを理解するならば，神が害悪に関してまったく責任を負っておられないことを，我々は悟るのである。

人に苦しみをもたらす世の災害には，もともと2つの種類がある。ひとつは，人と自然の法則との関連において生じる。自然の法則によって，大洋の真中に起きた地震の余波が何千キロメートルも離れた海岸を襲い，死と破壊をもたらすのである。何年か前にハワイで

そのようなことが起きた。また畑で働いている人に時々落雷がある。孤立した民家や自動車を吹雪が見舞い，防寒具で身を固めない人々を凍死させることもある。疾病に苦しめられ，一生涯かたわになってしまう人々もいる。

これら自然に起こる出来事は災害と呼ばれることがあるが，我々は自然の法則を経験することから大切な教訓を学ぶのである。収穫されたアメリカ綿をゾウ虫が襲った際に，一時はアメリカ綿産業が壊滅するとまで見られた。しかし，その災厄が大学人や研究者を動かし，ゾウ虫退治の発明がなされ，結果として綿産業は以前にも増して繁栄したのであった。また，ハワイを襲った津波の経験によって，津波の来る数時間前に警報を出す設備が整えられ，最近の津波では1名の死者も出さずに食い止めることができたという。

このように，我々は大切な教訓を学ぶが，それなくしては進歩を遂げることはできない。このような自然の力から教訓を得ることも，それによって人の生命が失われることを思えば，そう価値あるものではないであろう。だが，我々の人生が我々が生きるだけの人生であるとするならば，災害の問題に対して何ら解決は計れないであろう。

もうひとつの災害は，人対人の関係において生じるものである。ダニエル・デフォーの「ロビンソン・クルーソー」に描かれたクルーソーは，ひとりで住んでいた孤島に人の足跡を発見するまで，恐怖という言葉を知らないでいた。現代の恐怖，苦しみ，悲しみの多くは残虐な人間によって引き起こされるものである。とはいえ，あなたにはこの地球以外に住むべき場所があるだろうか。もし自分の世界を造り出せるとしたら，あなたはどのような世界を心に描くだろうか。多くの人が律法に支配されないで住むことのできる星を造るだろうか。律法によって治められない状態は頼りにならないことを心に留めていただきたい。もし太陽がある1日だけ昇り，あとの1カ月位昇らなかったとするなら，あるいは2プラス2がいつも4とは限らないとするなら，その世界はどんなありさまになることであろう。

進歩は，律法の存在する世界，科学者たちが星の蝕を予知し，ロケットが月に到達するのにどれだけの時間が必要かを測ることのできる，規則ある律法の世界でのみ可能である。人間の進歩のすべてはこの世界が律法の世界であるからこそ，実現できたのである。もしあなたが神であったとしたなら，あなたはその律法に干渉するだろうか。ある人々を不快にするからといって風をとどめるだろうか。ピクニックに行きたいからと，雨をやますだろうか。我々は時々，神に天候を変えたり自然の力をとどめて欲しいと思うが，もし神がいつまでも自然現象を変え続けるとしたら，我々の存在目的はなくなってしまうことであろう。

神御自身が，神は律法に従って働かないならば，もはや神ではないと言っておられる。モルモン経の予言者は，にがさを味わわなければ甘さを知らず，悪を知らなければ何が善であるかを判別できず，病いの苦しみを知らなければ健康を喜ぶことができず，死の苦痛を知らなければ永遠の生命の喜びを知らないと言って，相反するものの律法を教えた。善と知恵の神は，我々を学ぶためにこの地上へ送られたのである。

世界中でどれだけの人が，不幸や悲惨を神のみこころと考えていることであろうか。世界に戦争があるのも神のみこころであると考える人々さえいる。我々は真実を知らねばならない。その時，諸天は人々の非人道的な行為

を見て涙を流しているのである。救い主は肉体をもって地上に生活しておられた間に，これらのことをはっきり教えて行かれたではないか。

麦と毒麦のたとえの中で，ぶどう園の主人に使われるしもべたちが出かけて行って畑に麦をまいた。麦が成長すると間にまじって雑草や毒麦がはえてきた。その時しもべは主人に尋ねた，「では行って，それを抜き集めましょうか」。主人は言った，「いや，毒麦を集めようとして，麦も一緒に抜くかもしれない。収穫まで，両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら，刈る者に，まず毒麦を集めて束にして焼き，麦の方は集めて倉に入れてくれ，と言いつけよう」（マタイ13：28—30）。畑で落雷にあった人は悪人で，神が滅ぼそうとされたから雷に撃たれたのではない。落雷で人が死ぬのは神のみこころではない。神は悪人をすぐに退治されるのではなく，悪人も善人もともに生かしておかれるのである。神は刈り入れの日に正しい裁きが下されるように，善人にも悪人にも同じく雨を降らせるのである。

ある時，人々はイエスに，シロアムの塔が倒れた時に塔のわきで昼食をとっていた18人がいたと述べた。彼らの問いたいことは「これらの人は町の人々よりも悪い人たちだったのでしょうか」ということであった。そこで，イエスは答えられた，「あなたがたに言うが，そうではない。あなたがたも悔い改めなければ，みな同じように滅びるであろう」（ルカ13：5）。また彼らは別の時にやってきて，ローマの兵士が，神殿のまわりに集まっていた人々を，暴動をたくらんでいると考えてきり殺したと言った。そこでイエスは言われた，「それらのガリラヤ人が，そのような災難にあったからといって，他のすべてのガリラヤ人以上に罪が深かったと思うのか。あなたがたに言うが，そうではない。…」（ルカ13：2—3）。

第二次世界大戦中，もし神の戒めを守るならば，何事もなく無事に帰還できると戦争に行くときに約束されたシオンの青年たちがあった。大管長会はソルトレーク神殿の集会室で特別な会を開き，この問題に関する重要なメッセージを発表した。当時副管長であったデビド・O・マッケイ大管長はそのメッセージを読みあげたが，そこには，戦争において殺されるのは悪い人と限らず，善人も同様に銃下に倒れ，殺されることがあると，はっきり告げられていた。我々は，戦場で血を流す人々はみな神の戒めを破っているなどと判断してはならないのである。

アルマ書60章で，司令長官の初代モロナイが統治者ペホーランにあてた手紙を，我々は幾度も繰り返し読むべきであろう。民が間違って考えていることを手紙で知ったモロナイは，その返事の中でこう記している，「汝らは同じ国の民がかほどに多く殺されたのを見て，それはかれらが悪いことをしたからだと考えるか。もしそのように考えているならば，それはむだな考えである。はっきりと言うが，剣に倒れた者は多い。それらはすべて汝らに罪のあることを証明する。主はその正義と裁きとを悪人に受けさせるために義しい者が殺されることを許したもう。…」（アルマ60：12—13）。ここにリアリストでもあった予言者アルマの姿を見ることができる。彼は何が起きているかを明らかに知っていた。彼はこの重要な事実を書き記しているのである，「それであるから，義しい者が殺されたとてかれらが全く亡びてなくなったと思うべきではない。見よ，かれらはその神である主の安息に入るのである」（アルマ60：13）。

再び生きるということを知らずにこの世にいる人々を私はあわれに思う。愛する人が死ぬ時に，彼らの心はいかなる絶望にうちひしがれることであろう。それにひきかえ，悪の存在するこの世で死ぬ義人が栄光に入ると知ることは，何という喜びであろう。我々は栄光を受ける望みを持たないでいる人々のために涙を流すのである。

我々のうちのだれが，弾丸を発射し，津波をもたらす律法を取り去ってほしいと神に願うだろうか。一定の律法がないならば，世界は意味をなくしてしまう。我々は人の自由意志を奪い去ろうと思うだろうか。地上の戦争を人間にやめさせて下さいと神に願うだろうか。

サタンの計画は，人が悪を働けないようにすることであったが，その計画は人に成長の機会をまったく与えないものであった。神は人から自由意志を取りあげようとはされなかった。だが人間社会は自由意志を奪うこともあろう。我々は互いに好き勝手なことを行なう自由を認めてはいない。行動を制限する律法があるのである。ところが主は，我々が好きなことを行なうのを許しておられる。悪を望む時にも，そ

れをはばもうとはされない。私は，神が人の自由意志を取りあげたいと一番強く思われたのは，御子が十字架につけられ，苦悩の中から「わが神，わが神，どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれた時だったに違いないと考えている。しかしそのような時でさえ，神は御力を行使されなかった。なぜなら，もし神が人の行なおうとする悪をいつも阻止するとしたら，神は全人類の行ないについて責任をとることになり，裁きはあり得ないからである。

モルモン経の中に，裁きについてこのことに言及した箇所がある。予言者アルマは，伝道の仲間であるアミュレクと共に，ある場所である人々を改宗に導いた。しかし，改宗しなかった大勢の人々が改宗した者たちを捕え，木にしばりつけてたきぎを積み，火をつけた。彼らはアルマとアミュレクを縛りあげ，改宗者たちが火あぶりになる様を見せた。アミュレクはアルマに叫んで言った，「私たちはとてもこの残酷な有様を見てはおられない。さあ，手をさしのべて私たちに宿る神の力でこれらの者を火の中から救い出そうではないか」。ところがアルマはアミュレクに答えて「みたま」が私に手を出してはならぬと制したもう。……と言った。

アルマは，自分や改宗者たちを自由にすることのできる神の力を疑わなかった。彼はこう言っている，「主はこの殉教者たちを自分の居る所へ迎え入れて栄光を授けたもう。また，人民がその心のかたくななままにこのように信者を殺すことを許しておきたもう。それは，主が怒ってこの民に下したもう裁きが正義にかなうためであって，また罪のない者たちの血がこの民に反対する証となり，終りの日にはげしく民を訴えんがためである」（アルマ14：10—11）。

もしことごとく行ないを阻止されるとしたら，どのようにして裁かれようか。正義の裁きの下る日はないことであろう。我々は，教義と聖約，121，122章を読み，もう一度その精神をかみしめてみる必要がある。ジョセフ・スミスとその他の人々は，ミズーリ州リバティーにある牢獄の，3.6，7メートルの壁に囲まれた一室に閉じ込められていた。

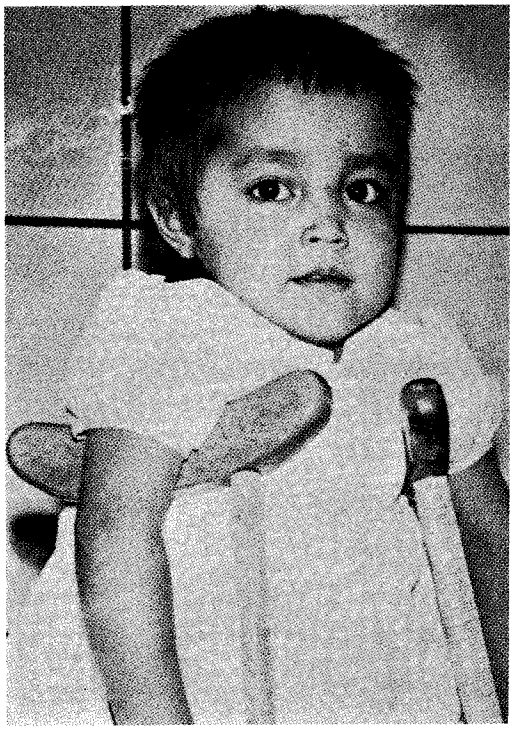
壁の両側にわずか5センチメートルほどの窓があるだけで，寒さにもかかわらず火の気はまったくなかった。彼らは凍死を防ぐために室内を歩きまわって，夜も眠ることができなかった。日中，あてがわれたボロボロの毛布2.3枚で仮眠をとるだけであった。食物も不潔だったが，何よりもがまんのならないことは，彼らの家が略奪され，家畜が殺され，妻たちが乱暴される話を看守たちの口から聞かされることであった。ついにジョセフ・スミスは主に嘆願した，「おお神よ，汝は何所に在したもうや。神の隠家を蔽える大幕何所にありや。汝の御手はいつまで止まり，汝の眼すなわち汝の聖き眼はいつまで永遠の天より汝の民と汝の僕らの被害を眺め，汝の耳はいつまで彼らのつんざく叫びを聞きたもうや。……」（教義と聖約121：1—2）

霊が苦悩に会う時，我々はしばしば「おお神よ，汝は何所に在したもうや。いつまでしいたげを受くることぞ」と叫びたい気持ちになる。予言者はこの時主から答えを聞いたのであった。「わが子よ，汝心安かれ。汝の不幸汝の困苦はただこれ束の間なり。……汝いまだヨブの如くにあらず。汝の友だちは，ヨブに為したる如く汝に向いて争わず……」（教義と聖約 121：7，10）

さらに主はジョセフに，「『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は彼より大いなるか」（教義と聖約122：8）と語られた。

「……わが子よ汝この事を知れ，すなわちこれ皆汝に善からんため，汝に経験を与えんためのものなり，と」（教義と聖約122：7）。この言葉の中に，我々は注目すべき思想を見出す。予言者ジョセフは，その日以降，決してつぶやきの言葉を口にしなかった。たしかに，世にはさまざまの悲惨な状態が存在する。しかし我々は，使徒パウロの述べたように「もしわたしたちが，この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば，わたしたちは，すべての人の中で最もあわれむべき存在となる」（Ⅰコリント15：19）と言わねばならない。

良かれ悪しかれ人生に起こるあらゆる出来事に対して，それらがみな自分のため，自分に経験を与えるためのものであるとの確信をもって立ち向かうことのできる思想を，我々は福音から受けている。それは何と恵まれた思想，何とすばらしい真理であろうか。



# 発展を続ける初等協会小児病院

副編集長

バーネル・W・ベレット

「初等協会小児病院は，長い間西部アメリカの指導的位置を占めてきました。そして今や，その恵みはあらゆる地域にいる幾千の子供たちにおよび，世界的な役割を果たすべき時となっています。」

こう語る人は管理監督会のロバート・L・シンプソン監督である。病院の理事長であるシンプソン長老は，「医療奉仕面においてユニークな小児の避難所」と自ら呼ぶこの病院の発展を深く洞察している。

彼はこう語っている。「私たちの現在の目標，目的が明らかにされました。私たちは，教会内外の人々から財政面での協力を得て，新しく劇的な発展段階に入ると確信しております。」

初等協会中央管理会会長および小児病院副理事長であるラバーン・W・パームリー姉妹も，「この病院は実に何千何億の人々のものです。それは，この病院を築き，維持することに貢献してきた人々にとって，愛と奉仕と信仰の象徴なのです」と述べている。

1969年10月以後10年間に病院の拡張発展に必要な1千万ドルを確保する目的をもって，初等協会小児病院基金財団が発足した。ルイス・M・ジョーンズがその理事長であり，会長はサイヤー・D（ターク）エバンズである。エバンズ氏は熱意と確信に満ちた声でこの遠大な夢を現実として語るのである。

「我々の計画は大きいが，決して必要を上まわるものではない。1959年には入院患者数の合計がわずか1千を越えただけであったのに，それからたった10年後の1969年には8千人近い子供たちを収容している。1959年には病院で

手術を受けた患者が588名であったのにひきかえ，去年は5,783名の手術が行なわれた。ほとんど全分野にわたり250名を越える医師が病院の医療スタッフとして活躍していることを知って人々は驚くのである」

基金財団の意図は，恒久的な収入を計り，それをもって手術面の施設拡充，初等協会献金の枠を越えた患者への経済援助，病院施設の拡張，新施設設立，近代医療器具購入および，建物建設計画を推進することである。

人種，宗教，国籍に区別なくすべての小児が奉仕の対象となる。患者の大半は中部山間地域出身であるが，昨年は27州および外国からも大勢入院患者があった。その年令は幼児から18歳にわたっている。

病院での奉仕活動が設備や人員の伸びに先がけて発展している。そのひとつが精神衛生に関するものである。ポール・L・ホワイトヘッド博士は精神科専門医であるが，昨年中に500数家族を含む2万人以上の外来患者を扱った。ホワイトヘッド博士は仕事に献身する若々しく人格円満な人物である。彼はこう語っている。「これほどの報いと満足の得られる仕事は他にないでしょう。現代の子供たちのおよそ20パーセントが何らかの精神治療を要する状態にあると推察されますが，そのうちの10パーセントが重症で，そのまた1パーセントは問題が深刻だと言わざるを得ません。もし治療がなされないままに成長するならば悲劇です。なぜなら我々の扱ったうち85パーセントの子たちが著しい進歩を見せ，立派に適応しているからです。少し例をお見せしましょう。」

博士は続ける，「ある14歳の少年は感謝祭の翌日にクリスマスツリーが飾られるのを見ていて，突然視力を失いました。心理実験では，その飾りが彼に1，2年前になくなった父親のことを思いださせたと出たのです。彼がその過去を完全に受け入れようと決意するならばまた元通りに見えるようになると励まされた少年は，盲目になった時と同じように突然視力を回復しました。彼は現在立派なスカウトとして，また優秀な学生として元気に活躍しています。

また，12歳の少女は，45ポンドも体重が減って，深刻に悩んでいると照会されてきました。彼女も父親がなくなったことを悲しんでそばに行くために自分も死にたいと思っていたのです。彼女は我々の継続治療計画のもとで精神療法を3か月間受けたのち，体重をとり戻して学校に復帰しました。まだ外来患者としてさらに9か月の治療を続けるのですが，経過は順調です。

非常に狂暴で，そのため通学をとめられた9歳の少年もいますが，精神状態が支離滅裂で，直接の怒りはほとんど父親と家での問題に向けられていました。1年間本人の精神療法と両親の助言と治療を施した結果，彼はもとのクラスに戻り，成績も非常に向上しています」。

病院内での心をなごませる話題は数えあげるいとまがない。ピクチャー・エラ・マエという2歳になる恥ずかしがり屋のナバホインディアンの女児は歩き始めると同時にトラックにひかれた。はじめて病院に来た時にはびくびくしてさびしそうであったが，やさしい医師やスタッフたちのおかげですぐにかくれんぼをして遊ぶようになり，松葉杖をついて，寝台の下にかくれたり，くすくす笑う声には屈託がない。

また，チリから来た14歳になるエンジェルという少年は，心臓手術をしなければ数週間の命という状態であった。胃カイヨウの出血などの余病を併発し，医師や看護婦たちの心配は大きかった。だが今日，エンジェルはチリの美しい山間で楽しくあいきょうのある笑顔を周囲の人々にふりまいている。

アフリカのホーテ・ボルタ共和国に住む失意の父親がデビド・O・マッケイ大管長に手紙を寄せた。「大管長様どうか私の話を聞いて下さい。哀れな父親の助けを請う叫びを聞いて下さい。」ディディアーという彼の息子が火傷を負い，左腕が体に癒着したままもち上がらないということであった。ディディアーは航空会社の好意を受けてソルトレーク市まで運ばれた。そして整形外科手術と手厚い看護を受け，今では腕を動かせるようになった。彼

の主治医はこう記している。

「ディディアーはずいぶん回復した。彼を見ていると，我々までうれしくなる。スタッフ全員が彼のことを心にかけている。今は病院の学校に通っており，英語が上手に話せるようになった。彼を故郷に帰すのがさびしい気がする」。

その後まもなく，アフリカの父親から一通の手紙がついた。「息子のディディアーは9月27日，空港まで出迎えた私たちのもとへ，元気に楽しそうに帰ってきました。飛行機から降りる時に手を振って，左手が完全に動くことを教えてくれました。私たちは信じられませんでした。奇跡でした。ディディアーの母親は泣き，小さい弟や妹たちはおどりあがって喜び，学校の友だちは『万歳，アメリカ人！』と叫びました。このことは私たちの心に深く残るすばらしい贈り物です」。

このような話は幾百を数え，ここに書き尽すことはできない。だが最近起きた出来事をもうひとつあげよう。パシリという不幸な少年がいた。事情があってわずか3歳半で故郷のトンガを遠く離れた，身寄りのない少年であった。看護婦の言葉を聞きとれず，看護婦もその子の話す言葉を理解できなかった。しかし，愛という言葉はすべての垣根を越え，まもなく彼は看護婦のあとをついてまわるようになり，友情に応えるようになった。

パシリは胃腸に欠陥があったためにかなりの嚢腫をわずらい，腹部が大きくはれていた。彼は数時間にわたる手術を受け，欠陥を矯正し異常組織を除去された。現在は完全に回復している。

トンガではパシリが帰って来るという噂が流れ，自分の目で話をたしかめようと村中の人々が総出で空港に出迎えた。多くの人は，帰ってくるなどというのはまったくの噂だけで，飛行機から姿を見せるはずがないと信じ込んでいた。またある者は，彼がいなくなってからそう月日がたっていないので良くなるはずがないし，前と違わない体だろうと言った。また他の人々は，アメリカの医者は何でもできると信じていた。

ところが，パシリは他の子供と違わない体で元気に空港へ降り立ったのである。疑っていた人々も信じていた人々も顔を輝かし，両親はただ喜びの涙にくれるだけであった。

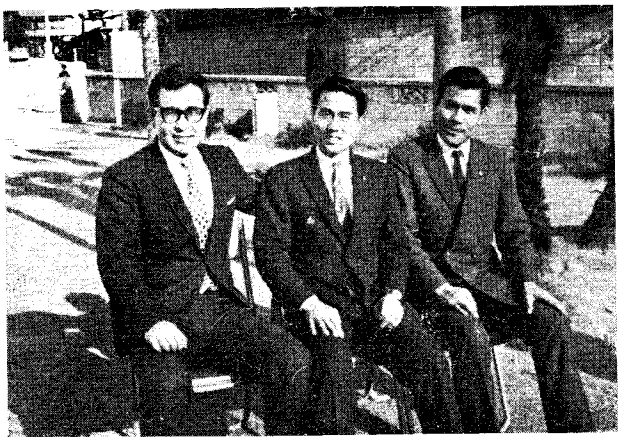
初等協会小児病院の医師，看護婦，スタッフたちは，労働時間や報酬を度外視した奉仕の精神にあふれている。彼らの多くは，病院で発展した愛と友情から，養子を迎えている。数えきれない人数におよぶボランティアー（志願奉仕者）が働いているが，そのようにして働いていたある歯科医はある時病院外の人から「あなたはここで働いて，どれほどの給料をもらっていますか」と尋ねられた。その医師は窓ガラスに鼻をおしつけ，歯をむきだして笑って手をふっている数人の子供たちに目をやり，「あれが私の報酬です。あれが人の必要とする報酬のすべてではありませんか」と答えた。

1911年に初等協会がＬＤＳ病院内に子供用のベッドをいくつか備えつけると決めた時から，長い年月がたった。1922年にはノーステンプル通りに回復期患者病棟が開かれ，1952年に現在の施設が整えられるまで小児病院として利用された。さらに1966年には新しい拡張を見た。

基金計画が進められている現在，初等協会小児病院は，もはや限られた子供たちだけのものではない。大規模な医療および教育センターとして，世界中に影響をおよぼすべき時が来ているのである。

## 日本伝道部だより

# 三つの地方部誕生



浜田兄弟（北）青柳兄弟（西）萩本兄弟（東）
（地方部長）

1月31日，群馬県高崎にて，会員のみの特別大会が開かれました。日本伝道部の各地から，特別大会に出席すべく，多くの聖徒たちが美しい礼拝堂へと集いました。その日迄，日本伝道部は東京ステーキ部を除いた残りの支部が一地方部を構成していました。けれども伝道部における会員の増加に伴い，地方部を分割する必要が生じてきましたので，今度，三つの地方部，日本北地方部，日本東地方部，日本西地方部に分けられました。新らしく三つの地方部長会がつくられ，又群馬支部の支部長会も大会で新たに組織されました。

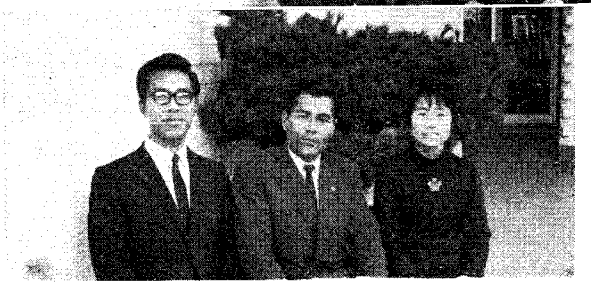
私たちはこの多事な大会をとおして，誠に主がその祝福を日本の人々に注いでおりたもうことと，主の福音が日本の国の隅々にまで広がりつつあることを目の当りに見ることができました。新たに組織されたこれら三つの地方部は，日本伝道部における主の業をますます助け強めてゆくことでしょう。

**＊日本北地方部長会**

| | |
|---|---|
| 地方部長 | 浜田哲 |
| 第一副地方部長・書記 | 真下宏 |
| 扶助協会会長 | 金子良子 |

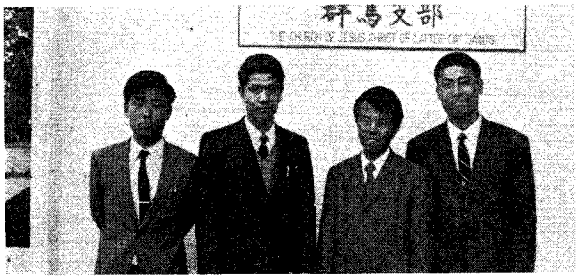
**＊日本東地方部長会**

| | |
|---|---|
| 地方部長 | 萩本信美 |
| 第一副地方部長・書記 | 工藤栄一 |
| 扶助協会会長 | 市川公子 |



**＊日本西地方部長会**

| | |
|---|---|
| 地方部長 | 青柳弘一 |
| 第一副地方部長・書記 | 阿部達也 |
| 扶助協会会長 | 小柳澄子 |




**＊群馬支部長会**

| | |
|---|---|
| 支部長 | 青木計 |
| 第一副支部長 | 関澄夫 |
| 第二副支部長 | 渡辺道夫 |
| 書記 | 飯島利道 |

# 日本中央伝道部のページ

## ＜34名の大神権者誕生＞

1月の各地方部大会で，日本中央伝道部初の34名の大神権者が誕生した。地方別人数を次に示すと，1月17日近畿中国地方部大会18名，1月24日近畿四国地方部大会10名，1月31日中部地方部大会6名。この成果は昨年度から各支部で始めたアロン神権昇進セミナーが大きな原因となっている。34名の大神権者の増々の活躍を乞御期待.／

近畿中国地方部の18名の大神権者達

近畿四国地方部の10名の大神権者達

## ＜ガールズプログラムキャンピングのサーティフィケイション表彰式＞

日本中央伝道部のガールズプログラムで昨年秋に念願のサーティフィケイションキャンプを行ったがその時のイヤリング及びマウンティンニヤの二つのレベルの取得証明書を本大会に於いて，資格取得者に与えられた。栄えある受賞者は櫟典子，坂部百合子，山下スズ子，三田村和代，篠々山和江（以上近畿中国地方部）管本和子，長谷川桂子，中田紀代子（以上近畿四国地方部）吉田和代（中部地方部）である。

近畿中国地方部のガールズプログラムキャンピング受賞者

近畿四国地方部のガールズプログラムキャンピング受賞者

## ＜新地方部長会組織される＞

本大会に於いて近畿中国，近畿四国両地方部の新らしい地方部長が召され会員の支持を受けました。新メンバーは次の通りです。

近畿中国地方部長会

地方部長　中野正之

第一副地方部長　水野敬一

第二　〃　市道喜八郎

近畿中国地方部長中野兄弟

近畿四国地方部長会

地方部長　牧瀬十二郎

第一副地方部長　福屋航二

第二　〃　山内威彦

新らしい近畿四国地方部長会メンバー

# 日本東伝道部だより

日本東伝道部が設立されて１年を迎えようとしていますが，伝道部初めてのユースカンファレンスを，８月６，７，８日の３日間にわたって札幌の地で開催することになりました。

概要は，次のとおりです。

６日　開会式，スポーツ祭，演劇祭

７日　ゼミナール，ピクニック，ダンスパーティー

８日　証会

参加を希望される方は年令に制限がありませんので，よく準備してください。申込書は，各支部長さんに送ってあります。

去る１月23日，24日の北海道地方部大会において新たに伝道部ＭＩＡの役員が支持を受け任命されました。

ＹＭＭＩＡ第１副会長　大塚照夫

ＹＷＭＩＡ第２副会長　林　はるみ

また北海道地方部役員の顔ぶれが次のようになりました。

| | |
|---|---|
| 地方部長 | 平野勝也 |
| 第１　〃 | 西嶋吉春 |
| 第２　〃 | 本間　広 |
| 書記 | 中田和彦 |
| 評議員 | 新江一夫 |
| 〃 | 倉見光男 |
| 〃 | 山田明毅 |
| 〃 | 児島克己 |
| 〃 | 遠藤孝紀 |
| 〃 | 酒巻俊二 |

【写　真　説　明】

上段より

一般大会に集った兄弟姉妹たちの信仰強くかつ熱心な表情（300人参集）

遠く伝道地から集った兄弟姉妹たちがＭＩＡ大会で声高らかにコーラスを歌う

よく準備した演劇「リアホナ」を演ずる兄弟姉妹たち

# 食料貯蔵キャンペーン

1969年，秋，東京北支部（現東京第二ワード部）のレクリエーション，ホールで北支部扶助協会のバザーが開催されていた。扶助協会の作製した数々の作品群や食品の中にあってともすれば見過ごしてしまいそうなくらいの規模で，ある展示が行なわれていた。それは約２週間分の非常時食料見本の展示であった。このコーナーは当時それほど多くの人々の関心を呼ばなかった。しかしこの小さな展示が，長老定員会を中心とする食料貯蔵委員会の第一回のキャンペーン・プログラムであり，現在東京ステーキ部で最も食料貯蔵計画の進んでいる第二ワード部の貯蔵プログラム推進計画の第一歩でもあった。

＊　＊　＊

唯一真の神を知っている私たちは，予言者を通して数々の戒めや警告により，この地上の生活において，正しく，迷わずに進めるよう導かれてきたのである。それらは什分の一となり，智恵の言葉となり，数々の守るべき事柄となって私たちの生活を守ってくれている。食料貯蔵に関する教会幹部の勧告はすでに1936年から出されている。戒めの一つ一つに対する私たちの理解度に差があるからといって一方を重く見て守り，他方はわからないからといってないがしろにすることはできない。私たちは神からでる戒めを全て守ってはじめて神の愛の中で生活ができるのである。もしよく理解できないのならそれを理解しようとする努力が必要である。貯蔵計画についてもその努力が必要である。いま一度第二ワード部の努力の後を追って私たちの一つの指針としたい。

＊　＊　＊

昨年（1970年）の11月23日第二ワード部は第２回の貯蔵キャンペーンを行なった。今度は扶助協会のバザーにうずもれたプログラムではなかった。ワード部あげてのこの計画には長老定員会が中心となって貯蔵食料の見本を展示し，はちみつ，麦，玄米，豆，氷砂糖，各種缶詰類の展示即売，写真（新聞社より借りてきた災害写真）や映画を使用しての貯蔵ＰＲ食品公害についての実験，講演，そして扶助協会は保存食品の試食会，また一般会員の数家庭からは現在行なっている食料貯蔵の現物展示など，多彩な内容のもとに行なわれた。

そして昨年暮ステーキ部長からも貯蔵計画の実施が強調された。その後第二ワード部貯蔵推進委員会は再編成された。この組織は常任アドバイザーと地区アドバイザーから構成され，アドバイザーは各々の地区の家庭を訪問し，貯蔵計画の促進を助け励ます役目を持ち，その他キャンペーンの推進役となる。「地区」とは第二ワード部地域を便宜上５つの地区に分割し，たとえば交通機関が停止したとしても30～40分以内の徒歩で集会できる範囲を決めた。すなわち東長崎地区，中野地区，練馬地区，ひばりケ丘地区，また赤羽・川口地区の５地区である。地区アドバイザーとは別に常任アドバイザーとして松下監督をはじめとする三名のアドバイザーが全体の推進役として活躍している。

２月11日の祭日には第３回のキャンペーンが行なわれた。内容は昨年の２回目とはまた一新され，長老定員会制作の貯蔵ＰＲカラースライドの映写（「ある青年の決意」所要時間20分）。食料（かんづめ，ハチミツ，その他保存食）と固型燃料，消毒液の展示即売，保存食を使用する料理講習会，食料以外の非常用物資の見本展示（トランジスターラジオ，消化器，衣料等）質問コーナーの設置，一カ月分の食料見本の展示，ワード部内の貯蔵状態のグラフ展示などであった。

このように監督会，神権指導者を中心とする貯蔵計画の展開はワード部内の会員一人一人の意識を高め，多くの家庭にとって貯蔵計画は日常の生活の一部となってきた。

ワード部は最低６カ月以上の貯蔵を年間目標として会員に呼びかけている。すでに４カ月分を貯えた神権指導者の家庭をはじめとして，各家庭は貯蔵食料の棚や貯蔵場所が作られ数々の工夫がこらされている。

ある副監督の家では深さ２メートルに及ぶ鉄筋コンクリートの本格的地下貯蔵庫を建設した。これらがステーキ部全域に広がり，その日，おじ惑うことのないようにと願ってやまない。　（T）

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九七一年三月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十五巻第三号

# 「耐えよ，……しあわせのために」

## リチャード・L・エバンズ

バージルは「耐えよ、己れを守れ。しあわせの日のために」[1]と書いている。我々には、もはや耐えられない、現実に立ち向かえない、失望や問題に負けそうだ、重荷をこれ以上になえない、と感じる時がたびたびある。しかし、このような時は、来て、また去って行くのである。強さと勇気と環境とが波に乗って、高きから低きへ、そしてまた高きへと移っていくに応じて…。その低い時、我々は耐えねばならない。日がさして、荷が軽くなる時まで、持ちこたえねばならない。セネカは言った、「だれも逆境を耐えられはせぬ。もし、その間中、はじめの打撃と同様の苦しさがおそい続けるとしたならば」[2]と。人は最後の言葉を急ぎすぎる。もう一刻も待てない、もうできない、もはやだめだと言うのである。「これですべてだ。もう抜け出したい」と。このような時は、遮断器や限界を越えると切れてしまうヒューズになぞらえることができよう。我々はしばしば、これで持ちこたえられるかと心配をする。しかし、そこには安全装置がある。我々はそれを人の心に見い出すのである。人の精神、肉体、心は弾力性を備えており、我々が思うよりは、はるかに強い力を秘めているのである。できない、耐えられない、がまんできないと言ったあとで、しかも我々は行ない、耐え続けているではないか。時の経過や再評価や再調整により、時にはやむにやまれぬ必要から、我々の価値観や見方が変えられ、自分の内部に隠されていた強さや忍耐力を見出すのである。「人生は現実だ。人生は熱に燃えている」[3]。詩人はこう叫んでいる。現実に向かい、人生のかじを取るのは常に容易なわけではない。だが、あきらめる前に、我々が今何をあきらめようとしているのか、何をしようとしているのかを、真剣に考えてみなくてはならない。「フライパンから飛び出して、かえって火中に入る」とは含蓄ある古くからのことわざである。終りに言おう。希望と信仰と回復への力を求めて、立ち止まり、再評価し、時間をとるようにと。ソロンは語った、「もしあらゆる人がそれぞれの不幸をもって一箇所に集まったとしたら、ほとんどの人が自分の不幸を持って帰ろうと望むことであろう」[4]。「耐えよ、己れを守れ。しあわせの日のために」。

1、バージル，ポリドール―イタリアー、英国歴史家、聖職者（1475―1555）
「イリアド」第1巻
2、セネカ，ルシアス・アネイアス―ローマの哲人、政治家、（BC4―AD65）
Moral Fssays:On Tranguility of Mind
3、ロングフェロー，ヘンリー・ワーズワース―アメリカの詩人、（1807―1882）
A Psalm of Life, stanza 2
4、ソロン―アテネの立法家、詩人、（BC638―558）

**聖徒の道**
1971年3月20日発行
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7459
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）